第百六十一條　旅費ハ公務ニ依リ旅行スルトキ之ヲ支給スヘシ

第百六十二條　教員ノ旅費額ハ左表ノ如シ但シ順路ニ依リ之ヲ支給スヘシ

名稱	區別	滊車一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
本科正教員	郡內	四錢	四錢	十一錢	五十錢	三十五錢
	郡外	四錢	四錢	十五錢	八十錢	四十錢
專科正教員 准教員	郡內	三錢	三錢	九錢	四十錢	二十錢
	郡外	三錢	三錢	十錢	六十錢	二十錢

第百六十三條　滊車旅行ハ哩數ニ應シ滊車賃ヲ水路旅行ハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給スヘシ

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セサルモノトス

第百六十四條　强雨、積雪又ハ道路險惡ノ爲定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ニ於テハ定額二倍以內ノ車馬賃ヲ支給スヘシ

第百六十五條　滊車賃、車馬賃ハ旅行ノ種類每ニ經過セシ路程ヲ分算シテ之ヲ支給スヘシ但シ一位未滿端數ノ路程ハ切捨ツヘシ

第百六十六條　年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ滊車旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ計算スヘシ

第百六十七條　陸路六里未滿滊車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セサルモノトス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給スヘシ

第百六十八條　赴任ノトキハ舊任地ヨリ新任地マテ滊車賃、船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支給スヘシ

第百六十九條　旅行中私事ノ爲許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第百七十條　旅行中退職、廢職、休職又ハ死亡シタル者ニハ本職相當ノ額ニ依リ舊任地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ休職又ハ失職シタル者ハ此ノ限リニアラス

第百七十一條　前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ滊車旅行ハ一日二百哩詰、水路旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日ト

シテ之ヲ計算ス

第百七十二條 事務引繼、殘務整理等ノ爲退職、廢職及休職ノ者特ニ命ヲ受ケテ旅行シタルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第百七十三條 新ニ任用スル爲召喚セシ者ニハ本職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第百七十四條 旅行中川留、聟支等ノ爲メ他道ヲ迂回シ若ハ滯在シ又ハ疾病ノ爲メ滯在シタルトキハ相當ノ旅費ヲ支給スヘシ此ノ場合ニ於テハ官廳又ハ公衙ノ證明書ヲ要ス

第百七十五條 修學旅行又ハ教員講習會出席等ノ爲旅行ヲ爲ストキハ旅費ノ定額ヲ減シ若ハ其ノ一部ヲ給シ又ハ特ニ旅費額ヲ定メ日當ヲ以テ支給スルコトヲ得

前項ノ給與額ハ知事ノ認可ヲ受ケ郡長又ハ市長之ヲ定ム

第五節 諸給與

第百七十六條 教員ニシテ一週三十時ヲ超ヘ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ此ノ場合ニ於テハ辭令書ヲ交附ス

前項手當ノ金額ハ月俸十分ノ一以上トス

第百七十七條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ年末若ハ臨時ニ俸給年額百分ノ一以上ノ慰勞金ヲ給スルコトアルヘシ

第百七十八條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ支給スヘシ

第百七十九條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ支給スヘシ

第百八十條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ支給スヘシ

第百八十一條 第百七十六條又ハ第百七十七條ニ依リ給スル手當及慰勞金ハ郡長又ハ市長ニ於テ其ノ見込額ヲ具シ知事ニ上申スヘシ但シ郡長ハ管理者ノ意見ヲ聞クヲ要ス

第百八十二條 第百七十八條乃至第百八十條ニ關スル金額ハ管理者ニ於テ決定支給スヘシ

第百八十三條 前手當金、賄料及住宅料ハ俸給支給ノ例ニ準シ慰勞金及療治料ハ其ノ時々之ヲ支給スヘシ

第百八十四條 本章第三節第四節及第五節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第六節 代用教員

第百八十五條 市町村立小學校代用教員ノ進退ニ關スル規定ハ知事ノ認可ヲ受ケ郡長又ハ市長之ヲ定ム

第百八十六條 郡長又ハ市長ニ於テ市町村立小學校代用教員ヲ採用シタルトキハ其ノ族籍、氏名

、生年月日、採用年月日、學校名及俸給額ヲ具シ解職又ハ懲戒處分ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日及氏名ヲ具シ遲滯ナク知事ニ報告スヘシ

第百八十七條　市町村立小學校代用教員ハ年齢男子ハ十六年以上女子ハ十五年以上ニシテ品行方正、身体強壯且相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第百八十八條　市町村立小學校代用教員ノ月俸額ハ四圓以上十五圓以下トス

第百八十九條　小學校令施行規則第三十五條第三項ニ依リ町村立小學校ニ置クヘキ准教員ノ代用教員ヲ採用セントスルトキハ其ノ俸給ニ關シテハ管理者ノ意見ヲ聞クヲ要ス但シ一旦定マリタル俸給額以内ニ於テ採用スルトキハ此ノ限リニアラス

第百九十條　市町村立小學校代用教員ノ旅費額ハ准教員ノ旅費額ニ依ルヘシ

第百九十一條　市町村立小學校代用教員ニ給スル手當及慰勞金ハ第百七十六條第百七十七條及第百八十一條ノ例ニ準シ郡長又ハ市長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第百九十二條　市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費及諸給與ノ支給方法ハ第百五十六條ヲ除キ本章第三節乃至第五節ノ規定ヲ準用ス但シ自己ノ便宜ニ依リ退職シタルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給スヘシ

第百九十三條　本章第三節ノ規定ハ代用教員ノ職務及服務ニ關シ之ヲ準用ス

第七章　授業料

第百九十四條　補習科ノ授業料額ヲ定メタルトキハ管理者ニ於テ知事ニ届出ツヘシ

第百九十五條　授業料ハ日割計算ヲ爲サス又全月缺席スルモ之ヲ免除セサルモノトス但シ學校定例ノ休業臨時休業出席停止疾病又ハ忌引ニ依リ其ノ月全ク出席セサル兒童ニアリテハ其ノ月分ノ授業料ヲ徴收スヘカラス

第百九十六條　授業料ハ收入役ニ於テ毎月始業ノ日ヨリ一週間以内ニ之ヲ徴收スヘシ但シ期限後入學スル者ノ授業料ハ其ノ時々之ヲ徴收スヘシ

第百九十七條　授業料徴收ニ關スル手續ハ市町村長ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第百九十八條　本章ノ規定ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用セス

第八章　區長、學務委員及學校醫

第百九十九條　市町村又ハ町村學校組合ノ區長及其ノ代理者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指揮命令ヲ受ケ區ニ屬スル國ノ教育事務ヲ補助執行スヘシ

第二百條　學務委員ハ小學校令施行規則第百八十三條ニ掲クル事項ニ就キ市町村長、町村學校組合長、區長及其ノ代理者ヲ補助スル爲毎月二回以上市役所又ハ町村役場ニ會合シテ事務ノ協議ヲ爲スヘシ

學務委員ハ毎月二回以上關係ノ小學校ヲ視察シ設備其ノ他ノ教育事務ニ注意シ意見アルトキハ之ヲ管理者及當該學校長ニ陳述スヘシ[illegible]

第二百一條 學校醫ハ學校ノ設備又ハ兒童又ハ教員等ノ衛生上ニ關シ學校長又ハ教員ノ諮問アル[illegible]キハ意見ヲ陳述スヘシ但シ學校醫ナキトキハ此ノ限ニアラス

[illegible]第九章[illegible]幼稚園、[illegible]學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ノ職員[illegible]

第二百二條 幼稚園保姆ノ檢定ハ其ノ必要アルトキ臨時ニ之ヲ行フモノトス

第二百三條 幼稚園保姆檢定委員長ハ視學官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ試驗施行ノ際知事之ヲ命ス

第二百四條 幼稚園保姆ノ檢定ヲ受ケントスル者ハ願書（第一號書式）履歴書（第二號書式）及品行證明書（第三號書式）ヲ添ヘ住所地ノ郡役所又ハ市役所ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

（第一號書式）

[illegible]幼稚園保姆檢定願

道廳（府縣）郡（市區）町（村）番地住族稱

戸主（誰幾女等）（寄留者ハ本籍、寄留ヲ併記スヘシ）

氏　　名

何年何月何日生

私儀貴縣又ハ本縣内ニ於テ幼稚園保姆志望ニ付試驗檢定ノ上免許狀御授與相成度別紙履歴書等

相添ヘ此段相願候也[illegible]

年　月　日

右　氏　名　㊞

富山縣知事何某殿

（第二號書式）

[illegible]履歴[illegible]

道廳（府縣）郡（市區）町（村）番地住族稱

戸主（誰幾女等）

氏　　名

何年何月何日生

學　業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地官（公私）立何學校ニ於テ又ハ何地何誰ニ就キ何學科修業

一何年何月官（公私）立何學校ニ於テ何學科卒業證書寫ヲ添フヘシ[illegible]

一何年何月何地ニ於テ何々ノ試驗又ハ講習ヲ受ケ何々ノ證明書又ハ修了證書ヲ受ク證明書又ハ修了證書寫ヲ添フヘシ

職　業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何々ニ從事ス辭令寫（俸給辭令共）ヲ添フヘシ

[illegible]

一何年何月何所ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞(罰)ヲ受ク等

右ノ通ニ候也

年 月 日 右 氏 名 印

(第三號書式)

品行證明書

道廳(府縣)郡(市區)町(村)番地住族稱

戸主(誰幾女等)

氏 名

何年何月何日生

右者品行上從來不都合ノ行爲無之候依テ證明候也

年 月 日 道廳(府縣)郡(市區)町(村)長 氏 名 印

第二百五條 保姆ノ試驗科目及其ノ程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

修身 道德ノ要旨

國語 小學校教科用讀本ノ講讀並作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、單比例

唱歌 單音唱歌及樂器使用法

幼兒保育法 幼兒保育法ノ大要

第二百六條 幼稚園保姆ノ試驗ニ合格シタル者ニハ免許狀ヲ授與ス

第二百七條 他ノ道廳府縣ニ於テ保姆ノ免許狀ヲ有スル者又ハ相當ノ經歷アル者ニシテ特ニ適任ト認メタルトキハ試驗ニ依ラスシテ保姆ノ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第二百八條 市町村立幼稚園長及保姆ヲ採用セントスルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

一 住所、族稱、氏名及生年月日

二 採用スヘキ幼稚園名及職名

三 俸給ニ關スル見込額及管理者ノ意見書

四 學業、職務、賞罰等ノ履歷及學業證書並免許狀寫

轉任ノ場合ニ於テハ現任職名并前項第二號及第三號ノ事項ヲ具シ上申スヘシ但シ所轄外ノ市町村立幼稚園ニ在職セル幼稚園長又ハ保姆ノ採用ヲ上申セントスルトキハ現任地郡市長ノ承諾ヲ經ルヲ要ス

第二百九條 市町村立幼稚園長及保姆ノ增給又ハ手當ノ給與ヲ要スルトキハ郡長又ハ市長ニ於テ知事ニ上申スヘシ但シ郡長ハ管理者ノ意見書ヲ添付スヘシ

第二百十條 市町村立幼稚園長及保姆左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命ス

一 退職ヲ願出テタルトキ

二　不具若ハ癈疾ニ因リ又ハ身体若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

三　傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職務ニ堪ヘサルトキ

郡長又ハ市長ニ於テ前項各號ノ一ニ該當シ退職ヲ命スヘキモノト認メタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ上申スルコトヲ得

第二百十一條　前條ノ事由ニ依ラスシテ市町村立幼稚園長及保姆ニ退職ヲ命スヘキ必要アリト認ムルトキハ特別ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ郡長又ハ市長ハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ上申スルコトヲ得

第二百十二條　市町村立幼稚園ニ於テ保姆ヲ要スルニ當リ適當ノ候補者ヲ得サルトキハ郡長又ハ市長ハ一時雇員ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得但シ俸給額ニ就テハ郡長ハ管理者ノ意見ヲ徴スルコトヲ要ス

前項ノ雇員ハ年齢十六年以上ニシテ品行方正且相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第二百十三條　前條ノ雇員ヲ採用シタルトキハ其ノ年月日、氏名、族稱、年齢及俸給額ヲ又解雇シタルトキハ其ノ年月日及氏名ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

第二百十四條　私立幼稚園ノ園長又ハ保姆ヲ採用シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ又解職シタルトキハ其ノ事由、年月日及氏名ヲ具シ届出ツヘシ

一　採用年月日

二　住所、族稱、氏名及生年月日

三　採用シタル幼稚園名、職名及俸給額

四　學業、職務、賞罰等ノ履歴及學業證書並免許狀寫

第二百十五條　盲唖學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許ニ關シテハ小學校教員檢定ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十六條　市町村立盲唖學校其ノ他小學校ニ類スル市町村立各種學校ノ學校長、教員及雇員ノ採用、解職等ニ關スル手續ハ第二百八條乃至第二百十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百十七條　私立盲唖學校其ノ他小學校ニ類スル私立各種學校ノ學校長、教員ヲ採用シ又ハ解職シタルトキハ第二百十四條ノ例ニ依ルヘシ

第二百十八條　市町村立幼稚園長及保姆ノ月俸額ハ六圓以上三十圓以下トス

第二百十九條　市町村立幼稚園長及保姆ノ旅費額ヲ定ムルコト左表ノ如シ

滊車賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付
四錢	四錢	十錢	四十錢	三十錢

郡外旅行ノトキハ車馬賃二錢、宿泊料及日當各拾錢ヲ加給スヘシ

第二百二十條　市町村立盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル市町村立各種學校ノ學校長ノ月俸額ハ拾五圓以上六拾圓以下又敎員ノ月俸額ハ六圓以上五拾圓以下トス

第二百二十一條　市町村立盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル市町村立各町村立各種學校長及敎員ノ旅費額ハ第二百十九條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十二條　本章ニ明文ナキ事項ハ前各章ノ規定ヲ準用ス

第十章　附則

第二百二十三條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年富山縣令第五十七號明治三十三年富山縣令第七十七號全第九十七號明治三十四年富山縣令第十四號全第三十二號全第四十一號ハ之ヲ廢止ス

第二百二十四條　明治三十二年富山縣令第五十七號小學校設備規則第十五條ニ依リ設備計畫ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ之ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二百二十五條　本令ニ依リ提出スヘキ醫師ノ診斷書ハ辛號書式ニ依ルヘシ

（甲號書式）

通　知　書

字

氏　名

生　年　月　日

右者本年四月何日ヨリ何々尋常小學校ニ入學セシメラルヘク小學校令施行規則第八十二條ニ依リ通知ス

年　月　日

市町村長　氏　名　印

保護者

氏　名　殿

注意　正當ノ事由ナクシテ入學ヲ拒ムトキハ行政執行法ニ依リ過料ニ處セラルヘシ

貧窮者ノ兒童ニハ敎科用圖書、石盤、硯、草紙及雨具等ヲ貸與スヘシ

入　學　届

字何何番地何某何男女姉妹等

氏　名

年　月　日生

右者本年四月何日ヨリ何々尋常小學校ニ入學可爲致候此段及御届候也

年　月　日

保護者　氏　名　印

市町村長　氏　名　殿

（乙號書式）

明治何年度學齡兒童就學豫定表

市町村名							
尋常小學校又ハ分教場名							
男女別	男	女	男	女	男	女	計
就學兒童 尋常小學校ニ現ニ就學スル者 前年以前既ニ尋常小學校ノ教科ヲ卒業セシ者							
就學兒童 尋常小學校ニ現ニ就學スル者 本年卒業セントスル者							
就學兒童 尋常小學校ニ現ニ就學スル者 本年四月一日以後引續キ就學スル者							
計							
就學兒童 新ニ入學スヘキ者 本年就學義務ノ生スルモノ							
就學兒童 新ニ入學スヘキ者 舊義務者 猶豫ノ期間滿チタルモノ							
就學兒童 新ニ入學スヘキ者 舊義務者 免除ノ事故消滅シタルモノ							
計							
不就學兒童 就學ノ猶豫ヲナサントスル者 本年就學義務ノ生スル者							
不就學兒童 就學ノ猶豫ヲナサントスル者 前年以前ヨリ事故ノ繼續スル者							
不就學兒童 就學ノ猶豫ヲナサントスル者 本年ニ至リ事故ノ生シタル者							
不就學兒童 就學ノ免除ヲナサントスル者 本年就學義務ノ生スル者							
不就學兒童 就學ノ免除ヲナサントスル者 前年以前ヨリ事故ノ繼續スル者							
不就學兒童 就學ノ免除ヲナサントスル者 本年ニ至リ事故ノ生シタル者							
計							
合計							
豫定就學步合							
學齡兒童總數							
現在就學兒童數 前年以前既ニ卒業ノ者							
現在就學兒童數 現ニ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者							
現在不就學兒童數 猶豫							
現在不就學兒童數 免除							
現在就學步合							

備考

備考中ニハ兒童增加ニ對スル教室、器具、器械ノ不足數及其ノ費用並特別教育ニ關スル意見ヲ附記スヘシ

就學步合ノ計ハ男女平均數ヲ記入スヘシ

（丙號書式）

明治何年富山縣何郡何市（町村）學齡兒童就學義務ノ免除（就學ノ猶豫）

現在就學、不就學及未就學ノ別	兒童ノ氏名	生年月日	免除（猶豫）ノ事由	保護者ノ氏名及住所職業	兒童トノ關係

（備考）就學義務ノ免除ト就學ノ猶豫トハ別紙ニ調製シ兒童ノ氏名ハ生年月日ノ順序ニ認メ男女ヲ區別スヘシ

（丁號書式）

明治何年何月富山縣何郡何市（町村）學齡兒童就學ニ關スル調査表

種別	男	女	計
學齡兒童 就學兒童 現在就學者 本年就學義務ノ生スル者			
學齡兒童 就學兒童 現在就學者 猶豫ノ期間滿チタル者			
學齡兒童 就學兒童 現在就學者 免除ノ事故消滅シタル者			
學齡兒童 就學兒童 現在就學者 前年以前ヨリ既ニ就學セル者			
學齡兒童 就學兒童 現在就學者 計			
學齡兒童 就學兒童 尋常小學校卒 本年卒業セントスル者			
學齡兒童 就學兒童 尋常小學校卒 前年以前既ニ卒業ノ者			

兒童數（何年何月何日生ヨリ何年何月何日生マテ）

業者	計
合計	

不就學兒童

- 就學ノ猶豫ヲ爲サシントスル者
  - 本年就學義務ノ生スル者
    - 病弱、發育不完全
    - 貧窮
  - 前年以前ヨリ事故ノ繼續セル者
    - 病弱、發育不完全
    - 貧窮
  - 本學年ニ至リ事故ノ生シタル者
    - 病弱、發育不完全
    - 貧窮
  - 計
- 就學免除ノ者
  - 本年就學義務ノ生スル者
    - 瘋癲、白痴、不具、廢疾
    - 貧窮
    - 小學校令第三十四條ニ該當ノ者
  - 前年以前ヨリ事故ノ繼續セル者
    - 瘋癲、白痴、不具、廢疾
    - 貧窮
    - 小學校令第三十四條ニ該當ノ者
  - 本學年ニ至リ事故ノ生シタル者
    - 瘋癲、白痴、不具、廢疾
    - 貧窮
    - 小學校令第三十四條ニ該當ノ者
  - 計
- 合計
- 總計
- 備考

（戊號書式）

明治何年何月富山縣何郡各町村學齢兒童一覽表

種別 ＼ 町村別	學齢兒童：就學兒童：現在就學	學齢兒童：就學兒童：卒業	學齢兒童：就學兒童：計	學齢兒童：不就學兒童：猶豫	學齢兒童：不就學兒童：免除	學齢兒童：不就學兒童：計	學齢兒童：合計	就學ノ歩合	男女合計：合計	男女合計：就學ノ歩合
男										
女										

	全部	
男	女	男	女

備考　本表ハ各町村長ヨリ差出シタル丁號ノ調書ニ依リ調製スヘシ

（癸號書式）

明治何年何月富山縣何郡何市（町村）立何尋常小學校就學兒童通知簿

就學兒童ノ氏名及生年月日	住所 族稱	兒童保護者ノ氏名及兒童トノ關係	住所 族稱 職業	入學前ノ經歷

（庚號書式）

何郡市（町村）別小學校兒童數調查表

明治何年第一（二）學期末日調

市町村名	學校名	男女別	就學ノ始期ニ達シタル兒童數	就學兒童數 在籍兒童數	就學兒童數 卒業兒童數	就學兒童數 計	就學兒童數 步合	就學兒童數 男女合計步合	不就學兒童數	仝上步合	男女合計步合	日々在籍平均數	日々出席平均數	仝上步合	男女合計步合	日々缺席平均數	仝上步合	男女合計步合
		男																
		女																
		男																
		女																
		男																
		女																
合計		男																
		女																

備考

一就學ノ始期ニ達シタル兒童數ハ本年四月一日ニ於テ六歳一日以上ニシテ現ニ學齡ニ在ル兒童數ヲ揭クヘシ

一在籍兒童數ハ現ニ學籍ニ在ルヘキ兒童數卽チ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童數ヨリ卒業兒童數ト不就學兒童數トヲ控除シタルモノヲ揭クヘシ

一卒業兒童數ハ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童數中ヨリ本年以前ニ卒業セシ數ヲ揭クヘシ

一就學步合ハ在籍兒童數ト卒業兒童數トノ合計ヲ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童數ヲ以テ除シタル百人ニ對スル步合ヲ揭クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

一不就學兒童數ハ猶豫、免除及小學校令第三十四條該當者ノ總數ヲ揭クヘシ又計算ハ前項ニ仝シ

一日々在籍平均數、日々出席平均數及日々缺席平均數ハ第一學期又ハ第二學期間ニ於ケル日々

々在籍[illegible]出席及缺席ノ兒童平均數ヲ掲ケ其ノ出席、缺席ノ歩合ハ孰レモ在籍平均數ニ對シ調
査スヘシ但シ日々在籍平均數トハ在籍兒童數就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童數ヨリ卒業ノ日
々平均數ヲ云フ　兒童數ト不就學兒童數トヲ控除シタル數

一高等小學校ニ關シテハ就學ノ始期ニ達シタル兒童數以下不就學兒童ノ歩合ニ至ルマテノ各欄
ヲ省キ調査スヘシ

（辛號書式）

診斷書

職　名

氏　名

年　月　日生

一病　名（主ナル病名若シ豫後ニ關スヘキ合併症又ハ續發症アラハ共ニ記載スヘシ）

一經　過（主病發生ノ時ヨリ現時ニ至ルマテノ病狀ノ經過ヲ記載スヘシ）

一現　症（主病並ニ必要ナル合併症又ハ續發症ノ現時ノ症候ヲ詳記スヘシ）

一豫　後（現症（主病又ハ主病及合併症又ハ主病及續發症）ハ凡幾日間ノ療養ヲ以テ治療スルヤ且療養中執務ニ堪ヘ難キ場合ニハ其ノ療養法ノ大体ニ就キ意見ヲ記載スヘシ又療養ヲ加フルモ執務ニ堪ヘ難ク又到底治療シ難キモノナラハ其ノ意見ヲ詳記スヘシ）

右ノ通診斷候也

住　所

年　月　日　醫師（官職アルモノハ其ノ官職名）氏　名　印

▲富山縣令第九十三號第二百二十三條參照

縣令第五十七號（明治三十二年）小學校設備ノ件

縣令第七十七號（明治三十三年）小學校教員檢定ノ件

縣令第九十七號（明治三十三年）小學校分教場設置ニ關スル件

縣令第十四號（明治三十四年）市町村立學校教員俸給旅費等支給ノ件

縣令第三十二號（明治三十四年）小學校教則學年及休業日並補習科ニ關スル件

縣令第四十一號（明治三十四年）小學校幼稚園盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校等ニ關スル件

◎富山縣訓令甲第五十四號

郡市役場所　町村　役場　公立　學校

明治三十六年八月二十一日

公立學校教員ニシテ新任シタルトキ又ハ他ノ道府縣ヨリ本縣ニ轉任シタル者ハ就職ノ日ヨリ五日以内ニ左ノ書式ニ依リタル履歷書ヲ製シ學校長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

（書　式）

履歷書（用紙美濃紙罫紙）

本籍　族稱　身分

現住所

氏　名　印

年　月　日生

年號月日	事項	官衙學校

備考　事項欄內ニハ免許狀卒業證書講習修了證書證明書及ヒ任免賞罰身分ニ關スル其ノ他事項等ヲ遺漏ナク年月日順ニ列載スヘシ

●富山縣訓令甲第七十五號

明治三十六年十月二十三日

郡市役所　町村役場　市町村立小學校

市町村立小學校修學旅行ニ關スル規程左ノ通相定ム

市町村立小學校修學旅行ニ關スル規程

第一條　市町村立小學校ニ於テハ一學年間四回以內ヲ限リ每回一日ノ修學旅行ヲ爲スコトヲ得

休業日又ハ教授時間外ニ於テ爲ス其ノ當日限ノ修學旅行及一回二時間以內ノ校外教授ハ前項ノ回數ニ算入セス

第二條　前條第一項ニ依リ修學旅行ヲ爲サントスルトキハ學校長ニ於テ其ノ期日、目的地、學年男女別兒童數及附添職員ノ職氏名ヲ具シ七日以前ニ管理者ヲ經監督官廳ニ屆出ツヘシ其ノ變更ノ場合亦仝シ

第三條　特別ノ事情ニ依リ一泊以上ノ修學旅行ヲ爲サントスルトキハ學校長ニ於テ七日以前ニ左ノ事項ヲ具シ管理者ヲ經知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ變更ノ場合亦仝シ

一　旅行ノ目的地
二　學年男女別兒童數
三　附添職員ノ職氏名
四　兒童一人ニ對スル費用ノ豫定額及其ノ支出方法
五　附添職員ノ費用支出方法
六　出發及歸校ノ年月日

第四條　本規程ニ依リ町村立小學校長ヨリ知事ニ提出スヘキ文書ハ郡長ヲ經由スヘシ

第五條　郡長又ハ市長ニ於テ第三條ノ書類ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ提出スヘシ

第六條　本規程ハ明治三十六年十一月一日ヨリ施行ス

●富山縣訓令甲第七十七號

明治三十六年十月二十六日

郡市役所　町村役場
市町村立小學校

市町村立小學校運動會ニ關スル規程左ノ通相定ム

市町村立小學校運動會ニ關スル規程

第一條　市町村立小學校ニ於テハ春秋各二回以內ヲ限リ土曜日又ハ休業日ニ於テ運動會ヲ開催スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テハ學校長ヨリ其ノ期日ヲ定メ七日以前ニ管理者ヲ經テ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第三條　運動ノ種類ハ小學校體操科ノ要旨ニ背カサルモノタルヘシ

第四條　特別ノ事情ニ依リ二校以上聯合シテ運動會ヲ開催セントスルトキハ聯合學校代表者ヨリ七日以前ニ左ノ事項ヲ具シ郡長又ハ市長ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ其變更ノ場合亦同シ

一　期日
二　會場
三　聯合小學校名
四　出會兒童學校學年男女別員數
五　經費總額及其ノ支出方法
六　係員ノ職氏名

第五條　前條ノ運動會ニハ會場ヨリ二里以上ヲ隔ツル所在ノ學校ハ聯合スルコトヲ得ス

第六條　郡長又ハ市長ニ於テ第四條ノ書類ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ提出スヘシ

第七條　本令ハ明治三十六年十一月十日ヨリ施行ス

●富山縣訓令甲第七十八號

明治三十六年十月三十日

郡市役所　公立學校（小學校ヲ除ク）

公立學校（市町村立小學校ヲ除ク）ニ於テ修學旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ宿泊ヲ要スルモノハ學校長ニ於テ旅行ノ目的地、出發及歸着ノ期日、學年別在級及旅行人員、生徒一人ニ要スル費用額及附添職員ノ職氏名ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ但シ當日限リノ修學旅行ハ本文ニ準シ三日以前ニ開申スヘシ

休業日又ハ教授時間外ニ於テ爲ス當日限リノ修學旅行及一回二時間以內ノ校外教授ハ前項ノ限リニアラス

本令ニ抵觸シタル從來ノ令達ハ爾今之ヲ廢止ス

明治三十六年十一月十三日

●富山縣訓令甲第八十二號

郡市役所 公立學校（市町村立小學校ヲ除ク）

公立學校（市町村立小學校ヲ除ク）運動會ニ關スル規程左ノ通相定ム

本令ニ抵觸シタル從來ノ令達ハ爾今之ヲ廢止ス

公立學校（市町村立小學校ヲ除ク）運動會規程

第一條 公立學校（市町村立小學校ヲ除ク）ニ於テ運動會ヲ開催セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ三日以前ニ知事ニ開申スヘシ其ノ變更ノ場合亦仝シ

一 場所

二 期日

三 經費ノ總額及其ノ支出方法

四 選手ノ出會ヲ求メシ學校名

第二條 運動ノ種類ハ体育ノ本旨ニ背カサルモノタルヘシ

第三條 公立校學生徒ニシテ他ノ學校ノ運動會ニ選手トシテ出會セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ但シ其ノ學校ハ課業ヲ闕クコトヲ得ス

●富山縣訓令甲第八十六號 明治三十六年十二月二十二日

郡市役所 師範學校

町村役場 市町村立小學校

明治二十一年富山縣訓令第六十六號明治二十八年富山縣訓令第三十二號同第三十八號明治三十年富山縣訓令第十八號明治三十三年富山縣訓令甲第八十九號仝第九十八號仝第百十號明治三十四年富山縣訓令甲第三十號ハ之ヲ廢止ス

◎富山縣訓令甲第八十六號參照

訓令第六十六號（明治二十一年）小學校生徒禮式ノ件

訓令第三十二號（明治二十八年）市町村立小學校職員敬禮法ノ件

訓令第三十八號（明治二十八年）教員配置ニ付注意方ノ件

訓令第十八號（明治三十年）專科教員等俸給豫算中立方ノ件

訓令甲第八十九號（明治三十三年）小學校教員進退ニ關スル細則ノ件

訓令第九十八號（明治三十三年）小學校長及教員ノ職務及服務細則ノ件

訓令第百十號（明治三十三年）學齡兒童就學及小學校生徒出席停止取扱手續ノ件

訓令甲第三十號（明治三十四年）小學校ニ備フヘキ表簿種類ノ件

●富山縣訓令甲第八十七號 明治三十六年十二月二十二日

郡市役所 町村役場

市町村立小學校

學齡兒童就學及出席獎勵規程左ノ通相定ム

學齡兒童就學及出席奬勵規程

第一條 郡長及市長ハ毎月郡内各小學校兒童出席歩各比較表ヲ調製シ町村役場及小學校ニ配附シ同時ニ知事ニ報告スヘシ但シ本表ニハ各町村ノ就學歩合ヲ記入スヘシ

第二條 小學校ニ於テハ父兄懇話會、通俗教育談話會、教育品展覽會、兒童朗讀會、唱歌會又ハ幻燈會等ヲ開催シ家庭トノ連絡ヲ圖リ且成ルヘク父兄ノ參觀ヲ勸誘スヘシ

第三條 小學校長及教員ハ毎年二回以上兒童ノ家庭ヲ訪問シ其ノ狀況ヲ家庭訪問錄ニ記入シ學校長ノ檢閲ヲ經ヘシ

第四條 小學校ニ於テハ部落別學級ノ出席歩合及個人ノ出席並ニ缺席日數ヲ調査シ適宜ノ方法ヲ以テ兒童ノ出席ヲ奬勵スヘシ

第五條 小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ兒童ノ組合ヲ設ケ出席奬勵ノ機關トスヘシ

第六條 貧困者ノ兒童ニハ成ルヘク小學校ヨリ學用品及雨具等ヲ貸與セシムヘシ

第七條 就學歩合九十八以上ニシテ出席歩合九十五ニ達シタル學校ニハ賞與ヲ爲スコトアルヘシ

但シ就學歩合九十八ニ達セサルモ前年度ニ比シ著シク其ノ歩合增加シタルモノニ限リ特ニ賞與ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 就學及出席奬勵ニ關シ功績顯著ナル者アルトキハ特ニ賞與ヲ爲スコトアルヘシ

第九條 郡長又ハ市長ニ於テ前二條ニ該當スルモノアリト認メタルトキハ毎年四月三十日限リ知事ニ上申スヘシ

附 則

第十條 本令ハ明治三十七年一月一日ヨリ施行ス

●富山縣訓令甲第八十八號

明治三十六年十二月二十二日

郡市役所 町村役場

學齡兒童就學事務取扱規程左ノ通相定ム

學齡兒童就學事務取扱規程

第一條 市町村長ハ毎年十二月二十日マテニ區長又ハ學務委員ヲシテ學齡兒童就學豫定表ノ材料ヲ調査セシムヘシ

第二條 市町村長ハ毎年一月三十一日マテニ學務委員ヲ招集シテ左ノ事項ヲ諮問スヘシ但シ同時ニ學務委員ニアラサル小學校長ノ意見ヲ聞クヘシ

設備ニ關スルコト

經費豫算ノ調製ニ關スルコト

三 特別教育ノ方法及其ノ設備ニ關スルコト

第三條　郡長ハ郡吏員ヲシテ毎年一月六日ヨリ二月二十日マテニ各町村ニ就キ就學豫定表、學齡簿及學籍簿ヲ戸籍簿及身分登記簿等ニ對照檢査セシムヘシ

第四條　市町村長ハ毎年二月二十日マテニ市町村吏員、區長又ハ學務委員ヲシテ其ノ市町村内ノ學齡兒童保護者ニ就キ兒童ノ就學屆書又ハ就學義務ノ猶豫若ハ免除ニ關スル願書等ヲ徴セシムヘシ

第五條　市町村長ハ毎年二月二十五日マテニ學務委員ヲ招集シテ學齡兒童就學義務ノ免除又ハ猶豫ニ關シ其ノ意見ヲ聞クヘシ但シ同時ニ學務委員ニアラサル部内關係小學校長ノ意見ヲ聞クヘシ

第六條　市町村長ハ毎年二月末日マテニ學齡兒童就學義務ノ免除又ハ猶豫ニ就キ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　市町村長ハ毎年三月二十五日マテニ其ノ年四月ニ就學スヘキ學齡兒童中就學義務ノ免除若ハ猶豫ヲ許サレタル者ノ保護者ニ對シ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第八條　市町村長ハ毎年四月一日ヨリ就學スヘキ兒童ノ皆就學ニ至ルマテ市町村吏員又ハ學務委員ヲシテ毎日部内尋常小學校ニ就キ就學スヘキ學齡兒童就學ノ有無ヲ取調ヘ就學ノ督促ヲ爲サシメ仍就學セサル者アルトキハ其ノ旨市町村長ニ報告セシムヘシ

市町村長ハ小學校令施行規則第九十三條ニ依リ二回ノ督促ヲ爲シ若シ之ニ應セサルトキハ直ニ監督官廳ニ報告スヘシ其ノ就學シタルモノニシテ正當ノ事由ナク缺席シタル者アルトキ亦同シ

第九條　郡長ハ毎年五月十日ヨリ六月十日マテニ町村長ヲ招集シ學齡兒就學成績表、學齡簿、學籍簿、尋常小學校兒童出席簿及就學ニ關スル書類ヲ調査スヘシ

前項招集ノ日割ハ知事之ヲ定メ主任官吏ヲシテ立會ヲ爲サシム

第十條　市町村長ハ毎年十二月二十日マテニ翌年四月一日ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ學齡兒童ヲ調査シ學齡簿ヲ調製スヘシ

第十一條　郡長ハ毎年一月ヨリ四月ニ至ル期間ニ於テ郡吏員ヲシテ一回以上各町村ヲ巡視シ就學事務ヲ監督セシムヘシ

附　則

第十二條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年一月二十三日

●富山縣告示第十五號

本縣師範學校ニ於テ第一學年男女生徒ヲ募集ス其人員入學願書差出期日入學試驗期日左記ノ通リ相定ム志願ノ者ハ明治三十二年一月富山縣令第五號師範學校生徒募集細則第四條ニ依リ該校長ヘ出願スヘシ

一　生徒ノ員數　男　公費生　六十人　私費生　二十人
　　　　　　　　女　公費生　三十人　私費生　十人
一　入學願書差出期日　明治三十六年二月五日限リ
一　入學試驗期日及時限　明治三十六年二月十二日午前第八時ヨリ

三十六年十月告示第二百十三號ヲ以テ講習學科目ニ手工ノ一科ヲ加フ

●富山縣告示第十八號　明治三十六年二月三日

明治三十四年一月富山縣令第四號採定小學校教科用圖書中右文館編輯須永和三郎發行尋常小學實踐修身訓兒童用

右發行者ヲ左ノ通變更セリ

大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番屋敷　前川善造

●富山縣告示第二十七號　明治三十六年二月二十日

明治三十六年四月ヨリ本縣師範學校ニ於テ明治三十三年二月縣令第十一號小學校教員講習科規則ニ規定シタル甲種講習ヲ開設ス其學科目開會期日講習員資格郡市長薦擧人員左ノ如シ

	教科目	期日	講習員資格	郡市長薦擧人員
第一回	教育、理科	四月十三日ヨリ五月三十一日マテ	小學校本科正教員男子	各郡市二人宛計二十人
第二回	教育、理科、裁縫	六月一日ヨリ七月十九日マテ	初年、尋常小學校本科正教員女子 次年、尋常小學校本科正教員女子	各郡市二人宛計二十人
第三回	教育、理科	九月七日ヨリ十月二十五日マテ	小學校本科正教員男子	各郡市二人宛計二十人
第四回	教育、理科	十月二十六日ヨリ十二月十三日マテ	尋常小學校本科正教員男子	各郡市二人宛計二十人
第五回	教育、理科	一月十一日ヨリ二月二十八日マテ	尋常小學校本科正教員男子	各郡市二人宛計二十人

●富山縣告示第二十八號　明治三十六年二月二十日

明治三十六年度ヨリ開設スヘキ小學校教員夏期講習會ノ講習學科開會期限教授時間始業時開會ノ場所講習員資格及各郡市長ニ於テ選定スヘキ講習員數等左ノ通リ相定ム

講習學科	開會期限	每週教授時	始業時	開會場	講習員資格	郡市長ニ於テ撰定スヘキ員數
圖畫（自在畫、用器畫、意匠圖案）	七月廿三日ヨリ八月十九日マテ 四週間	一八時	午前八時	工藝學校	本縣小學校在職ノ小學校本科正教員並專科正教員ノ男女	各郡市四人宛
農業（農業大意、園藝、害蟲）	七月廿三日ヨリ八月十九日マテ 四週間	二四時	午前八時	農學校	本縣小學校在職ノ小學校本科正教員並專科正教員ノ男	各郡　五人宛

一　講習志望者ハ志望學科ヲ記シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ選定方ヲ郡市長ヘ每年五月三十一日限リ出願スヘシ

二　郡市長ハ出願者中ニ就キ定員ノ外尙豫備員一名ヲ選定シ本人ノ願書履歷書ト共ニ選定書ヲ六月十五日限リ縣廳ヘ差出スヘシ

三　縣廳ニ於テハ郡市長ノ選定書ニ就キ審査シ其許否ヲ七月一日マテニ郡市長ニ通知ス

四　前記資格者ヨリ講習員定員ヲ得難キ場合ハ尋常小學校本科正教員ト雖モ特ニ許可スルコトアルヘシ

五　講習員ノ心得置クヘキコト左ノ如シ

一　講習員タルヘキ許可ヲ得タルモノハ開會當日始業時三十分前ニ會場ヘ參集スヘシ

一　講習員ハ小學校教員制服ヲ着用スヘシ但制服ヲ規定セサルモノハ此限ニアラス

一　講習員ハ講習用トシテ圖畫科ニ於テハ毛筆鉛筆畫用紙圖引具ヲ農業科ニ於テハ筆紙ヲ携帶スヘシ

一　講習員ニ關スル費用ハ一切自辨タルヘシ

一　開會學校長ノ許可ヲ得テ寄宿スルコトヲ得

六　講習ヲ修ヘタルトキハ出席日數ヲ考査シ證明書ヲ授與ス

◉富山縣告示第三十四號

富山縣立中學校ニ於テ來ル四月入學スヘキ生徒左ノ通募集ス志願ノ者ハ入學願書差出心得ヲ了知シ願書ヲ認メ來ル四月一日ヨリ仝月六日迄ニ左ノ試驗區域所屬ノ縣立中學校長ニ差出スヘシ

但入學試驗ハ來ル四月八日ヨリ施行ニ付仝日午前第八時志願者居住區域内ノ試驗場ヘ出頭スヘシ

明治三十六年三月六日

富山縣立中學校生徒募集人員凡三百三拾名

入學試驗區域及願書差出心得

試驗場	區域
富山中學校	富山市　上新川郡　婦負郡
高岡中學校	高岡市　射水郡　氷見郡
魚津中學校	東礪波郡　西礪波郡　中新川郡　下新川郡

入學願書ハ明治三十四年三月富山縣令第四十號富山縣立中學校規則第十五條ニ依リ認メ父兄若クハ後見人連署入學試驗手數料金壹圓(縣金庫ノ領收證)相添ヘ差出スヘシ但居住地内ノ中學校ニ於テ募集定員ヲ超過スル場合ハ他區域内ノ中學校ヘ入學ヲ許スヘキコトアルニ付兼テ其志望學校名稱ヲ第二第三ト區別シ願書ニ附記シ置クヘシ

上新川郡及婦負郡内居住ノ者ニシテ富山中學校ヲ距ル一里以外ノモノハ左ノ書式ニ依リ寄宿入舍誓約書ヲ願書ニ添ヘ差出スヘシ

但富山中學校區域外居住ノ者ニシテ第二或ハ第三志望ニ依リ富山中學校ヘ入學ヲ望ムモノモ亦本文ニ同シ

(書式)

入舍誓約書

某儀

御校ヘ入學御許可ノ上ハ必ス寄宿舍ニ入リ且向フ二个年間ハ在舍可致若シ違背セシ時ハ除名相成候トモ不苦依テ(父兄後見人)連署此段相誓候也

年　月　日

本人　氏　名　印

父兄若クハ後見人　氏　名　印

富山縣立富山中學校長何誰殿

●富山縣告示第三十九號

明治三十六年三月九日

富山縣立工藝學校ニ於テ本科第一學年生五十名別科第一學年生三十名ヲ募集ス入學出願ノ者ハ明治三十二年八月富山縣令第四十三號富山縣工藝學校規則第十三條及第十七條ニ依リ本月二十八日迄ニ該校長ヘ出願スヘシ

但入學試驗期日ヲ四月一日午前第八時ヨリトシ尚ホ撰拔試驗ノ有無ハ該校ニ就キ承合スヘシ

●富山縣告示第四十號

明治三十六年三月九日

富山縣立高等女學校ニ於テ來ル四月ヨリ入學セシムヘキ生徒左記ノ通募集ス入學志願ノ者ハ明治三十四年四月富山縣令第四十四號及同三十六年二月同令第二十三號ニ依リ該校長ニ出願スヘシ

一募集人員

壹學年生四十名　貳學年補欠三名　參學年補欠四名

一願書差出期日　四月一日ヨリ同四日迄

一入學試驗　二學年、三學年ノ補欠試驗ハ四月五日午前八時ヨリ一學年選拔試驗ハ四月九日午前八時ヨリ該校內ニ於テ施行ス

●富山縣告示第四十一號

明治三十六年三月九日

本年四月ヨリ開設スヘキ小學校教員講習科乙種第一類講習員募集人員並試驗期日等左記ノ通ニ付志願ノ者ハ本月十九日迄ニ本縣師範學校長ヘ願書差出スヘシ

一募集人員　男八十名　女四十名

一試驗期日　三月二十九日午前第八時ヨリ

一試驗場所　富山縣師範學校內

●富山縣告示第四十四號

明治三十六年三月十三日

富山縣立魚津中學校ニ於テ二年級以上補闕生徒各十名宛募集ス志願ノ者ハ明治三十四年三月富山縣令第四十號第十五條ニ依リ入學願書ヲ認メ試驗手數料相添ヘ來ル四月一日ヨリ仝六日迄ニ仝校長ニ差出スヘシ

但入學試驗ハ仝八日午前八時ヨリ施行ス

●富山縣告示第五十九號

明治三十六年三月二十七日

富山縣立魚津中學校明治三十六年四月一日ヨリ下新川郡加積村及道下村新築校舍ニ於テ授業開始ス

●富山縣告示第六十號

明治三十六年三月二十七日

來ル四月十三日ヨリ本縣師範學校ニ於テ小學校教員講習科乙種第一類講習ヲ開設ス

●富山縣告示第六十一號

明治三十六年度富山縣小學校教員講習科乙種第一類講習員學資補助金額ハ一个月金四圓トス

明治三十六年三月二十七日

●富山縣告示第六十二號

本縣立農學校ニ於テ左記ノ通生徒ヲ募集ス志願ノ者ハ本年三月富山縣令第二十八號第十一條乃至第十五條並明治三十四年四月富山縣令第四十九號富山縣農學校附屬農業補習學校規則ニ依リ本年四月十三日限リ該校長ヘ出願スヘシ

明治三十六年三月二十八日

但蠶業本科志願者ハ本校長宛ヲ以テ八尾分校ヘ願書差出スヘシ

一　農業本科第一學年生　八十名

一　蠶業本科第一學年生　三十名

一　豫　科第二學年生　四十名

一　附屬農業補習學校生徒　三十名

選抜試驗期日ハ本年四月十七日

●富山縣告示第七十三號

本縣立工藝學校附屬工業補習學校第一年生四十名募集候條志願ノ者ハ明治三十五年四月富山縣令第二十八號ニ依リ本月十五日限リ該校長ヘ願書差出スヘシ

明治三十六年四月八日

●富山縣告示第九十二號

本縣師範學校ニ於テ第一學年男女私費生補闕員ヲ募集ス入學願書差出期日入學試驗期日左記ノ通相定ム志願ノ者ハ明治三十二年一月富山縣令第五號師範學校生徒募集細則第四條(全三十六年一月富山縣令第十一號)ニ依リ該校長ニ出願スヘシ

明治三十六年四月二十四日

一入學願書差出期日　明治三十六年五月二日限

一入學試驗期日及時限　明治三十六年五月四日午前第八時ヨリ

●富山縣告示第百五號

來ル六月十日ヨリ左記ノ場所ニ於テ小學校教員ノ試驗檢定ヲ施行ス志願ノ者ハ明治三十三年十月富山縣令第七十七號小學校教員檢定細則第三條ニ依リ出願スヘシ

明治三十六年五月八日

但師範學校以外ノ場所ニ於テハ尋常小學校准教員ノ試驗檢定ノミヲ施行ス

一　師範學校內　一射水郡役所內

一　下新川郡役所內

(注　意)　尋常小學校准教員志願ノ者ハ其受驗場所ヲ願書ニ附記スヘキコト

◀富山縣告示第百五號參照

富山縣令第七十七號(明治三十三年十月)抄錄

第三條　無試驗檢定志願者ハ檢定開始期日二十日前ニ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書第三號書式ノ体格檢査書第四號書式ノ本籍地市町村長ノ證明書及ヒ戶籍抄本ヲ添ヘテ出願スヘシ

富山縣告示第百九十四號

本年十一月九日ヨリ左記ノ場所ニ於テ小學校敎員ノ試驗檢定ヲ施行ス志願ノ者ハ明治三十三年十月富山縣令第七十七號小學校敎員檢定細則第三條ニ依リ出願スヘシ

明治三十六年十月九日

但師範學校以外ノ場所ニ於テハ尋常小學校准敎員ノ試驗檢定ノミヲ施行ス

一　師範學校內　　一　射水郡役所內

一　下新川郡役所內

(注意)　尋常小學校准敎員志願ノ者ハ其受驗場所ヲ願書ニ附記スヘキコト

富山縣告示第百九十四號參照

富山縣令第七十七號(明治三十三年十月)抄錄

第三條　無試驗檢定志願者ハ隨時試驗檢定志願者ハ檢定開始期日二十日前ニ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書第三號書式ノ体格檢査書第四號書式ノ本籍地市町村長ノ證明書及戶籍抄本ヲ添ヘテ出願スヘシ

第十二類　警察

富山縣令第二十九號

畜犬取締規則左ノ通相定ム

明治三十六年四月八日

但明治十八年五月甲第二六號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

三十七年五月縣令第三十五號ヲ以テ改正

畜犬取締規則

第一條　哺乳期ヲ經過シタル畜犬ニハ屆濟証票ヲ其頸部ニ附スヘシ

第二條　畜犬傳染皮膚病ニ罹リタルトキハ之ヲ繫留シテ速ニ治療ヲ施スヘシ

第三條　人ニ危害ヲ加ヘ若ハ加ヘントスル虞アリト認ムル畜犬ハ畜主又ハ管守者ヨリ速ニ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第四條　警察官吏ハ危害豫防上必要ト認ムルトキハ畜犬ノ檻置、繫留ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　前條ニ依リ檻置又ハ繫留セシ畜犬ハ警察官吏ノ承認ヲ受クルニアラサレハ解放スルコトヲ得ス

第六條　濫リニ畜犬ヲ苦メ其他慘虐スヘカラス

第七條　第一條第二條第三條第五條第六條ニ違背シタルモノ及第四條ノ命令ニ從ハサルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

▲富山縣令第二十九號參照

甲第二六號（明治十八年五月）抄錄

畜犬ニハ其主ノ住所姓名ヲ詳記シタル頸環又ハ札ヲ附ケ置クヘシ

●富山縣令第三十號

明治三十六年四月二十四日

明治二十七年五月富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表中上市消防組人員左ノ通改正ス

消防組名稱	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
上市消防組	中新川郡上市町一圓	七十人 内 組頭一人 小頭四人 消防手六十五人		

●富山縣令第三十四號

明治三十六年五月一日

明治二十七年五月富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表中東水橋消防組人員左ノ通改正ス

消防組名稱	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
東水橋消防組	中新川郡東水橋町一圓	六十五人 内 組頭一人 小頭四人 消防手六十人		

●富山縣令第三十六號

明治三十六年五月八日

明治三十五年二月富山縣令第十一號荷車取締規則第二條及第九條ノ第一項第四項第八項第九項並ニ第十五條ヲ左ノ通改正ス

第二條ノ一　荷車ノ所有者ハ使用前所轄警察官署ニ屆出檢印ヲ受クヘシ

前項ノ檢印磨滅シタルトキ亦同シ

但荷車ヲ解撤シ若クハ再檢印ヲ受クル場合ハ舊檢印ノ要部ヲ切取リ返納スヘシ

第二條ノ二　左記各項ニ該當スル荷車所有者ハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　改造若クハ修繕ヲ加ヘタルトキ

二　賣買交換又ハ讓渡讓受タルトキ

三　住所氏名ニ異動アリタルトキ

第二條ノ三　荷車ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但耕作上使用又ハ貨物ニヨリ本條ノ制限ニ據リ難キモノ若クハ飲食其他商品等輕微物品ノ登鬻ニ專用スルモノハ制限ノ幾部ヲ斟酌スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ使用ノ目的ヲ詳記シ所轄警察官署ノ承認ヲ受クヘシ

一　牛車

一　車輪齒幅ハ三寸以上ニシテ其荷臺ノ幅ハ三尺以内、長サ轅木(梶棒)迄十四尺以内

二　馬　車

彈條ヲ具セサルモノ車輪齒幅ハ二寸以上、彈條ヲ具スルモノ車輪齒幅ハ一寸五分以上、荷臺ノ幅ハ三尺以内、長サ轅木迄十四尺以内

四輪車ニシテ彈條ヲ具セサルモノハ前輪齒幅ヲ一寸八分以上、彈條ヲ具スルモノハ二寸五分以上

三　其他ノ荷車

彈條ヲ具セサルモノ車輪齒幅ハ一寸五分以上、彈條ヲ具スルモノ車輪齒幅ハ一寸二分以上ハ荷臺ハ幅二尺五寸以内長サ轅木迄十二尺以内

第九條

一　道路ノ中央ヲ進行シ如何ナル場合ト雖モ疾驅スヘカラス

四　前車徐行シ後車追ヒ越サントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

八　鐵道線路ノ踏ミ切リ場所ニ於テ汽車ニ接近シ又ハ其信號アルトキハ二間以上ノ距離ヲ保チ一時進行ヲ止ムヘシ

九　二車以上引續キ進行スルトキハ後車ハ前車ヨリ二間以上ノ距離ヲ保ツヘシ但前車急ニ車ヲ止メントスルトキハ後車ニ對シ相當ノ合圖ヲナスヘシ

第十五條　第二條ノ一第二條ノ二第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十三條第十四條ニ違背シ若クハ第二條ノ三ニ依リ承認ヲ受ケタル荷車ヲ其目的以外ニ使用シタルモノ幷ニ第八條第十條第十一條第十二條ニ違背シテ制止ヲ背セサルモノハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●富山縣令第三十九號

明治三十三年二月富山縣令第八號理髮業取締規則左ノ通改正ス

明治三十六年五月十五日

理髮營業取締規則

第一條　本則ハ店舗ヲ設クルモノト否トヲ問ハス理髮業ヲ營ム者ニ適用ス

第二條　理髮業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齡ヲ記シ法定代理人又ハ保佐人ヲ要スル者ハ其ノ連署ヲ以テ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

廢業改氏名轉居又ハ法定代理人保佐人ニ異動ヲ生シタル場合ハ十日以内ニ營業者ノ失踪又ハ死亡シタルトキハ法定義務者ヨリ二十日以内ニ屆出ツヘシ

第三條　理髮場ノ地盤ハセメント若クハ漆喰敲又ハ煉化石トナスヘシ

但婦女ノ結髮ノミヲ業トスル者ハ此限ニアラス

第四條　理髮場及待合席ハ常ニ清潔ニシ毛髮ハ覆蓋アル容器ニ納メ散亂セシムヘカラス

第五條　理髮ニ從來スル者ハ清潔ナル白色ノ上衣ヲ着用シ且毎回理髮前ニ石鹼ヲ以テ手ヲ洗淨スヘシ

第六條　癲癇病肺結核病傳染性皮膚病アル者ハ理髪業ニ從事スヘカラス

第七條　客ニ供用スル手拭頸卷及刷毛類ハ清潔ナルモノヲ用ユヘシ

但傳染性皮膚病アル客ニ供用シタルモノハ使用ノ都度熱湯又ハ石炭酸水（二十倍）若ハ炭酸曹達浴液（二十倍）或ハフオルマリン（三十五倍）ヲ以テ消毒スヘシ

第八條　剃刀、剪刀、櫛齒鋏、及櫛、刷毛、類ハ使用ノ都度熱湯又ハ石炭酸水（二十倍）若ハ炭酸曹達浴液（二十倍）或ハフオルマリン（三十五倍）ヲ以テ消毒スヘシ

第九條　同業者ニ於テ營業上ニ關シ規約ヲ設クルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十條　本則ハ家族雇人等ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十一條　第二條乃至第八條ニ違背シタル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十二條　從來ノ理髪營業者ハ本則施行ノ日ヨリ十日以內ニ第二條ノ屆出ヲ爲スヘシ

明治三十六年五月十五日

●富山縣令第四十號

三十七年六月縣令第三十六號ヲ以テ三十八年八月三十一日迄延期

明治三十二年中富山市內ニ建設セシ假家屋ノ改造期限ハ明治三十七年八月三十一日迄延期ス

但越前町、一番町、二番町、西町、中町、袋町、東四十物町、砂町、國道線通及ヒ越前町三十一番地ヨリ總曲輪舊城前ニ至ル舊城前通ハ此限ニアラス

明治三十六年九月四日

●富山縣令第六十九號

明治二十九年八月富山縣令第七十號營業人力車取締規則中左ノ通改正ス

一第八條第一項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

人力車營業者又ハ輓子ニシテ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ鑑札ヲ褫奪スルコトアルヘシ

一第三十二條第一項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

人力車營業ニ關スル帳簿類ハ警察官ニ於テ隨時檢査スルコトアルヘシ

明治三十六年九月十日

●富山縣令第七十一號

明治二十六年十月富山縣令第五十九號湯屋營業取締規則左ノ通改正ス

浴場營業取締規則

第一條　本則ニ於テ浴場營業ト稱スルハ白湯、潮湯、藥湯、鑛泉湯等ノ浴場ヲ設ケ客ノ來集ヲ目的トスル營業ヲ謂フ但シ溫泉場營業ハ除ク

第二條　浴場營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ浴場ノ位置及構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ構造變更ノ場合ニ於テハ其部分ノ仕樣書及圖面ノ

ミヲ添付スヘシ

一　營業者ノ住所氏名年齡

二　浴場ノ位置

三　湯ノ種類

　但シ鑛泉湯又ハ湯ノ花ヲ混和スルモノハ湯元ノ證明書又ハ分析書ノ寫藥湯ハ賣藥免許鑑札寫

四　浴場ノ構造仕樣書、圖面幷ニ坪數

五　最近營業浴場トノ距離

六　蒸汽々罐ヲ使用スルモノハ其ノ檢査證寫

七　燃料ノ種類

八　工事落成期限

第三條　未成年者前條ノ許可ヲ願出ルトキハ法定代理人ノ許可ヲ得タル證ヲ添フヘシ

法人ノ營業ニ係ルトキハ業務ヲ担當スル代表者ヲシテ願書ニ連署セシムヘシ

前二項ノ場合ハ營業行爲ニ關シ法定代理人、法人代表者ニ於テ其ノ責ニ任スルモノトス

第四條　浴場ノ構造幷ニ設備ハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ警察署、警察分署所在地ノ市町村及東水橋町、福野町、福岡町以外ノ各町村ハ所轄警察官署ニ於テ制限ノ幾部ヲ斟酌スルコトヲ得

一　出入口ハ男女ヲ區別シ各別ニ三尺以上ノ戶又ハ障子ヲ用ヰ且ツ男女ノ區別ヲ揭示スヘシ

二　浴場内ハ凡テ外部ヨリ見透シ得サル樣構造スヘシ

三　男女脫衣場ノ中間ニ看守人席ヲ設クヘシ

四　看守人席ヨリ見易キ場所ヲ撰ミ履物及傘置場ヲ備フヘシ

五　脫衣場ハ男女各三坪以上ニシテ番號又ハ合符ヲ付シタル容器二十個以上ヲ設クヘシ

六　浴槽ハ長サ內法五尺幅三尺五寸深サ二尺七寸以上ニシテ其露出部ハ洗場ノ表面ヨリ一尺五寸以內トス

七　浴槽內ノ階段ハ昇降用ノミニ限ルヘシ

八　浴槽ニ覆屋ヲ設クルトキハ其ノ屋根ノ高サハ洗場ノ表面ヨリ六尺以上奥行ハ浴槽ヨリ三尺以內ニシテ其ノ前面ハ之ヲ開放スヘシ

九　浴槽ノ前面ニハ厚板、石、ハセメント若クハ漆喰ノ類ヲ以テ洗場ヲ設クヘシ但シ石造ニ係ルモノハセメント又ハ漆喰ヲ以テ接合シ厚板ヲ以テ構造スルモノハ地盤ニセメント又ハ漆喰等不滲透質ノ材料ヲ用ヰ築造スヘシ

十　洗場ノ廣サハ男女各三坪天井ノ高サハ九尺以上ニシテ地盤ニハ適當ナル勾配ヲ付シ且ツ汚水滯ヲ設クヘシ

十一　洗場ノ兩側ハ地盤ヨリ高サ一尺以上ノ石其ノ他不滲透質物ヲ以テ構造シ場外ニ汚水ノ滲透ヲ防クヘシ

十二　洗場ニ水、湯ヲ供給スル爲メ水槽湯槽(周圍十二尺深サ二尺以上)又ハ樋管ヲ設ケ且ツ男女各別ニ十人以上ノ使用ニ應シ得ヘキ腰掛幷ニ小桶(內法直徑七寸深サ四寸以上)十個及柄杓(內法直徑五寸深サ三寸以上)三個以上ヲ備フヘシ

十三　洗場ニハ湯氣抜ヲ設ケ且ツ汚物容器及唾壺ヲ備ヘ衣脱場トノ境界ニハ硝子障子ヲ用フヘシ

十四　湯槽、洗場、脱衣場ハ男女各別ニ設ケ其ノ境界ニハ高サ六尺以上ニシテ交通又ハ見透シ得サル様障壁ヲ設クヘシ

十五　浴槽、流場、脱衣場ハ充分ニ光線ヲ引ク装置ヲナシ夜間ハ点燈スヘシ

十六　燃料置場ハ火焚場、火消場及灰置場ヨリ六尺以上ノ距離ヲ保ツヘシ

十七　火消場及灰置場ハ地中ニ設ケ若クハ不燃質物ヲ以テ築造シ同質ノ蓋ヲ用フヘシ

十八　竈ノ周圍ハ石又ハ煉瓦ヲ疊ミ若クハ厚漆喰塗トシ火焚場ノ天井ハ不燃質物ヲ以テ構造スヘシ
煙突ハ四方二十間以内ノ最高家屋ノ屋上ヨリ六尺以上ノ高サトシ石、煉瓦、又ハ鉄板ヲ以テ築造シ轉倒セサル設備ヲ爲スヘシ鉄板ヲ以テ築造スル煙突ハ其ノ厚サ五厘以上ニシテ緊密ニ持合シ燃質物ニ接觸スル部分ハ三寸以上ノ空隙ヲ保タシムヘシ但シ「コークス」又ハ焚炭ヲ燃料トスル煙突ノ構造及設備ハ所轄警察官署ニ於テ其ノ幾部ヲ斟酌スルコトヲ得

十九　汚水路ハ臭氣ノ發セサル様蓋ヲ用ヰ便所ハ出入口ニ接近セス且ツ浴場、脱衣場ニ臭氣ノ及ハサル所ニ設クヘシ

第五條　浴場ノ構造、設備落成シタルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第六條　新ニ浴場營業ヲ爲サントスル者ハ最近同業者ト直徑參丁以上ノ距離ヲ保ツヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ特ニ免許ヲ與フルコトアルヘシ

第七條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ浴場營業ヲ許可セス

一　浴場營業許可ノ取消ヲ命セラレ滿一年ヲ經過セサル者

二　瘋癲、白痴ト認ムヘキ者

第八條　正當ノ理由ナクシテ左記各項ノ一ニ觸ルルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

一　許可ノ日ヨリ二个月以内ニ工事ニ着手セサルトキ

二　落成期限ニ落成セサルトキ

三　天災等ニ依リ浴場ヲ喪失又ハ毀壞シ六个月以内ニ再築セサルトキ

四　休業六个月以上ニ至リタルトキ

第九條　左ニ掲クル場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ第五項ノ場合ハ戸主又ハ相續人若クハ之ニ代ルヘキ者ヲ以テ屆出義務者トス

一　營業者又ハ法定代理人若クハ法人代表者氏名住所ノ變更

二　法定代理人又ハ法人代表者ノ變更

三　廢業又ハ十日以上休業セントスルトキ

四　使役人ノ雇傭又ハ解雇

五　死亡

第十條 相續ニ依リ浴場營業ヲ承繼シタルトキハ五日以内ニ其旨所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十一條 燃料及湯ノ種類ヲ變更セムトスルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ鑛泉湯又ハ湯ノ花ヲ混和スルモノ及藥湯ハ第二條第三號但シ書ノ書面ヲ添付スヘシ

第十二條 浴場ノ構造及設備破損シタルトキハ直ニ改造若クハ修繕スヘシ

第十三條 營業時間ハ午前四時ヨリ午後十二時迄トシ但シ年前、年末等慣行アル場合ハ此限ニアラス

第十四條 天候等ノ爲メ出火ノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ハ何時ニテモ浴場ノ焚火ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 營業時間中ハ看守人ヲ置キ浴客ノ衣類携帶品等ヲ看守スヘシ

第十六條 營業者ハ左ニ記載シタル者ヲ入浴セシムヘカラス

一 看護人ナキ幼老者、乱醉者、其他危険ト認ムヘキ者

二 疥癬、癩病、其他傳染性ノ疾患者但シ鑛泉湯又ハ湯ノ花ヲ混和シタルモノ及藥湯ハ此限ニアラス

第十七條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 浴場ニ於テ放歌、喧騒、悪戯若クハ不潔ノ行爲ヲ爲サシムヘカラス

二 浴槽内ニ於テ頭髮ヲ洗ヒ又ハ石鹼、洗ヒ粉、糠ノ類ヲ使用セシムヘカラス

三 湯槽及水槽内ニハ營業時間中湯水ノ供給ヲ怠ルヘカラス

四 前日用ヰタル湯、水若クハ汚水ヲ浴用ニ供スヘカラス但シ鑛泉湯又ハ湯ノ花ヲ混和シタルモノ及藥湯等ニシテ所轄警察官署ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

五 浴場ノ内外及下水溝ハ毎日淸潔ニ掃除スヘシ

六 火焚場及煙突ハ毎月二回以上掃除スヘシ但シ其期日ハ豫メ屆出掃除ノ都度所轄警察官署ノ檢査ヲ受クヘシ

七 火焚場ニ薪炭其他燃質物ヲ堆積シ置クヘカラス

八 遺留品又ハ取替品アリタルトキハ浴客ノ見易キ場所ニ掲示シ五日以内ニ所有主知レサルトキハ其ノ旨所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

九 浴客盜難ニ罹リタルトキハ速ニ警察官吏ニ申告スヘシ

第十八條 浴場内浴客ノ見易キ場所ニ左ノ事項ヲ掲示スヘシ

一 第十六條第一號第二號ニ該當スル者入浴謝絶ノコト

二 入浴料ノ定額

三 鑛泉湯又ハ湯ノ花ヲ混和シタルモノ及藥湯ニ在リテハ主治効能及方法

四 所轄警察官署ヨリ營業上ニ關シ特ニ掲示方ヲ指示セシ注意ノ事項

第十九條 警察官署ハ營業者ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ紊シ或ハ他人ニ名義ヲ假ス等ノ事實アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止スルコトヲ得

第二十條　營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者ヲシテ其責ニ任セシム

第二十一條　營業者ハ便宜ノ區域ニ依リ業務上ニ關スル同業組合規約ヲ設ケ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

組合區域ニ關シ紛議アルトキハ所轄警察官署ニ於テ之ヲ裁斷ス

第二十二條　第二條第四條第五條第九條第十條第十一條第十三條及第十五條乃至第十八條ニ違背シタル者第十二條ノ改造若クハ修繕ヲ怠リタル者幷ニ第十四條ノ停止命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第二十三條　從來ノ營業者ニシテ本則第四條ノ制限ニ適合セサルモノハ明治三十七年十二月三十一日迄ニ改造又ハ設備シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ其ノ認可ナキモノハ既ニ得タル許可ノ効ヲ失フモノトス

●富山縣令第七十二號

明治三十二年六月富山縣令第三十號職工募集取締規則左ノ通改正ス

明治三十六年九月十日

職工募集取締規則

第一條　本則ハ他府縣ニ於テ使役スル職工其ノ他ノ勞役者ヲ本縣内ニ於テ募集スル者ニ適用ス

本則ニ於テ募集者タルコトヲ得ヘキ者ハ傭主及其ノ家族、使傭人、幷傭主ノ依賴ヲ受ケタル紹介人、營業者ニ限ル

第二條　職工其他ノ勞役者ヲ募集セントスルトキハ傭主ヨリ左ノ事項ヲ具シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦仝シ

一　使役ノ目的

二　募集ノ區域及期限

三　募集スヘキ人員、男女別、年齡

四　疾病、死傷、及賞罰ニ關スル規程又ハ方法

五　契約年限及勞働時間

六　雇傭契約ニ關スル凡テノ事項

七　募集者ノ種別及其ノ族籍、住所、氏名、年齡幷本縣ニ在住セサル者ハ滯在地名

第三條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ法定代理人又ハ契約者若クハ夫ノ承諾書アルニアラサレハ募集者ニ於テ之カ募集若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

一　未成年者

二　他ト契約年限中ニ在ル職工及其ノ他ノ勞役者

三　有夫ノ婦

第四條　募集者ハ左ノ所業ヲ爲スコトヲ得ス

一 虚僞ノ方法ヲ以テ募集スルコト

二 應募者ニ對シ苛酷ナル取扱ヒヲ爲スコト

三 應募者ニ面會ヲ要スルモノアルトキ之カ取次キヲ拒ミ又ハ隱秘スルコト

第五條 募集者ハ募集台帳ヲ調製シ應募者アリタルトキハ直チニ其ノ住所、氏名、年齡、年期及給金等ヲ記載シ置クヘシ

第六條 募集者ノ宿所又ハ募集ニ關スル記錄類ハ警察官吏隨時点檢スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ募集者之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 募集者ニ於テ未成年者、有夫ノ婦、及他ト契約年限中ニ在ル職工及其ノ他ノ勞役者ヲ募集シタルトキハ其ノ住所、氏名、及年齡ヲ記シ出發五日前應募者所轄ノ警察官署ニ屆出ヘシ

第八條 募集者本則ニ違背シ又ハ募集上ニ關シ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十條 明治三十二年富山縣令第三十四號ニ依リ屆出テ現ニ募集期限中ノ者ハ明治三十六年十二月三十一日迄ニ本則第二條ニ依リ出願許可ヲ受クルニアラサレハ募集ヲ繼續スルヲ得ス

◎富山縣令第七十三號　明治三十六年九月十日

募集金品取締規則左ノ通相定ム

募集金品取締規則

第一條 人ノ家宅ニ就キ寄附、惠與又ハ義捐等ノ勸誘其他名義ノ如何ニ拘ラス金品ノ募集ヲ爲サントスルトキハ發起人ヨリ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一 募集ノ目的及ヒ其方法

二 募集スヘキ金錢物品ノ豫定額

三 募集ノ區域、期限

四 募集金品ノ保管方法

五 募集事務所ノ位置

六 發起人及募集人ノ族籍、住所、氏名、年齡

第二條 發起人ハ募集帳簿ヲ調製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ募集人ニ交付スヘシ

第三條 募集人募集ニ從事スルトキハ募集帳簿ヲ携帶スヘシ

第四條 出捐者アリタルトキハ募集人ニ於テ直ニ其ノ住所、氏名、金額、數量等ヲ募集帳簿ニ記載シ且其ノ收支ヲ明瞭ナラシムヘシ

第五條　發起人ハ募集上ニ關シ虛僞ノ陳述又ハ不實ノ記載ヲ爲スヘカラス

第六條　募集人ハ左記各號ノ所業ヲ爲スヘカラス

一　出捐者ノ任意ニ依ルノ外出捐ヲ强フルコト

二　不實ノ言行ヲ以テ募集スルコト

三　帳簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲スコト

第七條　警察官吏ノ臨檢及募集ニ關スル記錄ノ閱覽ハ發起人幷ニ募集人ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　募集ヲ終リタルトキハ二十日以內ニ發起人ヨリ其ノ收入及支出ヲ明ニシ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出ヘシ

第九條　發起人及募集人ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ其他募集ノ目的ニ反スル行爲アリト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　第一條乃至第八條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十一條　本則ハ法人トシテ成立シタルモノ及明治三十一年內務省令第六號ニ據ルモノ幷氏子、檀徒、信徒、親戚、故舊、隣佑間其他公認セラレタルモノニ對スル義捐又ハ寄附金品ノ募集ニハ之ヲ適用セス

●富山縣令第七十四號

明治三十六年九月十日

明治二十五年月富山縣令第十九號遊技場取締規則左ノ通改正ス

遊技場取締規則

第一條　本則ニ於テ遊技場ト稱スルハ室內射的、大弓、半弓、弓揚、玉突、玉投、投扇、玉轉、吹矢、魚釣等ニシテ衆人ニ遊技ヲ爲サシムルヲ以テ目的トスル公開ノ營業場ヲ云フ

第二條　遊技場營業ヲ爲サントスル者ハ左記ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クヘシ其ノ位置及構造ヲ變更セントスルトキ亦同シ但構造變更ノ場合ニ於テハ其ノ部分ノ仕樣書及圖面ノミヲ添付スヘシ

一　營業者ノ住所、氏名、年齡、及屋號アルモノハ其ノ名稱

二　遊技場ノ種類及位置

三　構造ノ制限アルモノハ其ノ仕樣書、圖面並落成期限

四　遊技料

第三條　左記各項ノ一ニ該當スル者ハ營業ヲ免許セス

一　猥褻、姦淫、賭博及富籤ノ罪ニ依リ處罰セラレタル者

二　密賣淫又ハ其ノ媒合容止ノ罪ニ依リ處罰セラレタル者

三 素行不良ニシテ風俗ヲ紊スノ虞アル者

四 他人ニ名義ヲ仮シ營業ヲ爲サントスル事實アリト認ムル者

五 料理屋、飲食店及待合茶屋ノ營業ヲ爲ス者

第四條 營業者ハ前條第一號乃至第三號ニ該當スル者ヲ使傭スルコトヲ得ス

第五條 室内銃場及空氣發矢銃場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 射垜ハ高サ五尺以上幅九尺以上ニシテ一寸以上ノ厚板ヲ用ヰルコト但空氣發矢銃場ニ在リテハ蓆又ハ土俵等ヲ用フヘシ

二 射垜ノ後方ニハ九尺以上ノ空地ヲ存スルコト

三 射道ノ左右兩側ニハ板若クハ幕ヲ以テ防圍ヲ設クルコト

第六條 大弓、半弓及楊弓場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 射垜ハ高サ八尺幅一丈二尺以上ノ石垣又ハ厚壁土俵ヲ以テ構造シ其ノ土嚢ハ厚サ三尺以上ニシテ後面ニハ六尺以上ノ空地ヲ存スルコト

二 射道ノ左右ニハ六尺以上ノ空隙ナキ障壁ヲ設クルコト

三 射場ト射垜トノ中央上部及射垜正面ノ上部ニハ板又ハ幕ヲ以テ矢止ヲ設クルコト

第七條 室内空氣銃、揚弓及吹矢場ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 射道ノ左右ハ板又ハ幕ヲ以テ境界ヲ設クルコト

二 標的ノ後方及左右ニハ幕ヲ以テ矢止ヲ設クルコト

第八條 構造ノ制限アル遊技場落成シタルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第九條 構造制限アル遊技場及遊技具破損シタルトキハ修繕ヲ加フルニアラサレハ開場スルコトヲ得ス

第十條 遊技場ニハ其ノ名稱ヲ記シタル看板ヲ掲ケ夜間ハ標燈ヲ出スヘシ

第十一條 遊技料ヲ增減シタルトキハ二日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十二條 遊技場ノ營業時間ハ夜間十二時限リトス

第十三條 遊技場ニ使用スル婦女ヲ雇入レタルトキハ三日以內ニ其ノ住所、氏名、年齡ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但シ死亡ノ場合ハ戶主又ハ相續人若ハ之ニ代ハルヘキ者ヲ以テ屆出義務者トス

一 營業者ノ住所、氏名及屋號ノ變更

二 廢業及十日以上休業セントスルトキ

三 死亡

第十五條 遊技場ニ於テハ左ノ事項ヲ爲スヘカラス

一 白痴、瘋癲、乱醉者其ノ他危險ト認ムヘキ者ニ遊技ヲ爲サシムルコト

二　抽籤又ハ符合等ヲ用ヰテ物品ヲ與ヘ若ハ遊客ヲシテ是等ノ行爲ヲナサシムルコト但技術ノ優劣ニヨリ景物ヲ與フルハ此限ニアラス

三　料理屋、飲食店又ハ待合ニ等シキ所業ヲ爲シ若ハ遊客ヲ宿泊セシムルコト

四　不實ノ廣告ヲ爲シ若ハ通行人ニ遊技ヲ勸誘スルコト

五　破損シタル弓銃ヲ使用セシムルコト

六　雷管ヲ場外ニ持出サシムルコト

七　名義ノ何タルニ拘ハラス定マリタル遊技料以外ニ金錢ヲ徵スルコト

八　路上ヨリ遊技ヲ爲サシムルコト

第十六條　遊技料ハ遊客ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十七條　警察官署ハ營業者ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊スノ行爲アリト認ムルトキ及左記各號ノ一ニ觸ルヽトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一　落成期限ニ落成セサルトキ

二　六ケ月以上休業シタルトキ

第十八條　營業上ニ付テハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業ヲ者シテ其ノ責ニ任セシム

第十九條　第二條及第八條乃至第十六條ニ違背シタル者及第四條ニ違背シ警察官ノ注意ヲ受ケテ尙其ノ命ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第二十條　本則施行前免許ヲ受ケタル營業者ニシテ本則ノ構造制限ニ適合セサルモノハ明治三十六年十二月三十一日迄ニ改造シ其ノ旨所轄警察官署ニ屆出ルニアラサレハ免許ノ効ヲ失フモノトス

◉富山縣令第七十五號

明治三十六年九月十八日

明治二十八年八月富山縣令第六十八號料理屋及飲食店取締規則左ノ通改正ス

料理屋飲食店及待合茶屋取締規則

第一條　料理屋、飲食店及待合茶屋ノ營業ヲ爲サントスル者ハ營業場一ケ所每ニ族籍、住所、氏名、年齢及左記各號ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ許可ヲ受ケタル後營業場ノ位置ヲ變更シ又ハ客間ノ坪數ヲ增減セントスルトキ亦同シ

一　營業ノ種類

二　營業場ノ位置

三　營業場ノ圖面

四　客間ノ坪數

第二條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但シ死亡ノ場合ハ戶主又ハ相續人若ハ之ニ代ハルヘキ者ヲ以テ屆出義務者トス

一　族籍住所氏名ノ變更

二　十日以上休業セントスルトキ

三　廢業又ハ營業場ノ廢止

四　死亡

第三條　料理屋、飲食店、待合茶屋ノ營業時間ハ日出ヨリ夜間十二時迄トス但シ貸坐敷免許地域内ハ此限リニアラス

營業時間外ニ客ヲ接待シ又ハ客及藝妓其ノ他ノ婦女ヲ宿泊セシメントスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　來客中ハ晝夜ノ別ナク營業場ニ鎖鑰類ヲ施スコトヲ得ス但シ來客宿泊ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此限ニアラス

第五條　婦女ヲ雇入レ又ハ住居セシメントスルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第六條　雇傭又ハ住居ノ認可ヲ受ケタル婦女ニシテ風俗ヲ紊ス行爲アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ其ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第七條　營業者ハ左記各號ノ所業ヲ爲ス可カラス

一　各種ノ學校ト直徑二百間以内ノ營業場ニ於テハ其ノ學校ノ授業中ニ藝妓ヲ聘スルコト

二　雇傭又ハ住居ノ認可ヲ取消サレタルモノ及藝妓ヲ住居セシムルコト

三　雇女又ハ其ノ他ノ婦女ヲシテ藝妓ノ所業ヲ爲サシムルコト

四　飲食ヲ勸メ又ハ遊興ヲ促スコト

五　肺結核、癩病、黴毒、疥癬、其ノ他傳染性疾患者ヲシテ來客ニ供スヘキ飲食物ヲ調理又ハ提供セシムルコト

第八條　飲食等ノ代料トシテ客ノ物品ヲ受取リ又ハ典賣ノ依賴ニ應セントスルトキハ警察官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第九條　營業上ニ付テハ家族、雇人ノ所爲ト雖營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第十條　營業者ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ風俗ヲ紊シ若クハ他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條　第一條乃至第五條第七條及第八條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二條　從前開業ノ待合茶屋營業者ハ明治三十六年九月三十日迄ニ本則第一條ニ依リ出願許可ヲ受クヘシ

第十三條　飲食店ニシテ單ニ店頭ニ於テ飲食セシメ其ノ他辨當等ノ仕出ヲ業トスル者ハ本則ヲ適用セス

●富山縣令第七十六號　明治三十六年九月十八日

明治二十八年八月富山縣令第六十二號富山縣違警罪目第一條第二項ヲ改正シ第二條第一項及第五條第三項ノ次ニ左ノ通追加シ第二條中ノ第二項以下順次繰下ク

第一條

二 有病、病死ノ鳥獸及第一項ニ依リ捕獲シタル鳥獸魚介ヲ賣買又ハ授受シタル者

第二條

二 強テ吉凶ノ會式ニ臨ミタル者

第五條

三 行人ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ籠筵ヲ使用シタル者

●富山縣令第八十二號

代書營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十六年十一月十三日

代書營業取締規則

第一條 本則ニ於テ代書營業ト稱スルハ報酬ヲ得テ他人ノ爲メニ書類ノ調製ヲ爲スヲ營業トスル者ヲ謂フ

第二條 代書營業ヲ爲サントスル者ハ一ケ所毎ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

一 營業者ノ族籍、住所、氏名、年齡及他ニ營業アル者ハ其ノ營業名

二 營業所ノ位置

三 營業者ノ履歷

第三條 左記各號ノ一ニ該當スル者ニハ營業ヲ免許セス

一 年齡二十年未滿ノ者

二 品行不正ト認ムル者

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四 私印私書僞造、變造又ハ恐喝取財、詐欺取財ノ被告人トナリ公判又ハ豫審ニ附セラレタル者

五 他人ニ對シ秘密ノ漏脫又ハ民事、刑事ノ訴訟ヲ爲スコトヲ煽動シ、教唆若ハ勸誘スルノ虞アリト認ムル者

第四條 營業者ハ代書料ヲ定メ所轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受ケ營業所ノ見易キ箇所ニ揭出スヘシ

書類調製ニ要スル用紙ハ半紙及美濃紙共各二十四行一行二十字詰以上トシ行數ヲ以テ代書料ヲ計算スヘシ但シ訴訟書類等ニシテ別ニ規定アルモノ及圖面其ノ他本項ノ規定ニ準據シ難キモノハ此限ニアラス

第五條 營業者ハ左ノ所業ヲ爲スコトヲ得ス

一　警察官署ノ認可ヲ得タル代書料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ報酬ヲ受クルコト

二　訴訟又ハ非訟事件ニ關シ紹介ヲ爲シ若ハ自ラ仲裁、鑑定及助言ヲ爲スコト

三　他人ノ訴訟書類又ハ印判類ヲ預置スルコト

四　必要以外ノ書類又ハ圖面ヲ調製シテ代書料ヲ請求スルコト

第六條　營業者ハ左ノ看板ヲ營業所ニ掲出スヘシ但シ官公署内ニ於テ營業スルコトヲ特許セラレタル者ハ此限ニアラス

長一尺五寸

巾五寸

住所

代書營業　氏名

免許番號

第七條　家族雇人又ハ同居者ヲシテ業務ヲ代理又ハ補助セシメントスルトキハ本人ノ履歴書ヲ添ヘ所轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

第八條　營業者ノ使用又ハ所有スル印判類ハ免許ノ日ヨリ五日以内ニ印影ヲ添ヘ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ其變更シタルトキ亦同シ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出テ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請求シ若ハ之ヲ返納スヘシ但シ失踪及死亡ノ場合ハ戸主又ハ相續人若ハ之レニ代ルヘキ者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一　免許鑑札ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ

二　營業者ノ住所氏名又ハ營業所ヲ變更シタルトキ

三　他ノ警察官署ノ所轄ニ轉居シタルトキ

四　廢業シタルトキ

五　失踪又ハ死亡シタルトキ

第十條　警察官吏ハ營業者ノ家宅又ハ營業所ニ就キ營業ニ關スル書類及帳簿等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ營業者之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　營業者ハ依賴者名簿ヲ備ヘ依賴ヲ受ケタルトキハ卽時其ノ住所、氏名、年齢、依賴事項、代書料及年月日ヲ記載シ置クヘシ但シ代書料ハ徴收ノ際記入スヘキモノトス

第十二條　營業者ニシテ本則ニ違犯シ又ハ公安ヲ害スルノ所爲アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ何時ニテモ其ノ免許又ハ認可ヲ取消シ若ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條　營業上ニ關スル事項ニ付テハ家族、雇人又ハ同居者ノ所爲ト雖營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第十四條　第二條第四條乃至第十條第二項及第十一條ニ違犯シ竝ニ第十二條ノ停止期間中營業ヲ

爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十五條　從來ノ營業者ハ明治三十六年十一月三十日迄ニ本則第二條ニ依リ免許鑑札ヲ受クヘシ

● 富山縣令第八十四號

明治二十七年五月富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表中高岡消防組人員左ノ通改正ス

明治三十六年十一月十三日

高岡消防組	高岡市一圓	二百三十二人 内 組頭　一人 小頭　十一人 消防手　二百二十人

第一部	小頭	二人
	消防手	四十人
第二部	小頭	二人
	消防手	四十人
第三部	小頭	二人
	消防手	四十人
第四部	小頭	二人
	消防手	四十人
第五部	小頭	二人
	消防手	四十人
第六部	小頭	一人
	消防手	二十人

● 富山縣令第八十五號

乘合自動車營業取締規則左ノ通相定メ即日ヨリ施行ス

明治三十六年十一月十七日

乘合自動車營業取締規則

第一章　通則

第一條　乘合自動車ノ營業ヲ爲サントスル者ハ族籍、住所、氏名、生年月日及左記各號ヲ具シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一　營業所ノ位置
二　營業線路ノ圖面、道幅及里程
三　車体ノ構造法
四　一時間ノ營業用最大速度
五　營業時間
六　原動力ノ種類及機械構造書

原動力瓦斯式ニ在リテハ左ノ事項ヲ記スヘシ

一　瓦斯發動機ノ種類（横置直立ノ類及「シリンダー」内瓦斯點火ノ方法等）
二　「シリンダー」ノ徑及數
三　衝程ノ長サ
四　回轉數
五　實馬力

原動力電氣式ニ在リテハ左ノ事項ヲ記スヘシ

一　配電所ノ位置及器具機械ノ裝置法
二　電動機ノ種類及個數

三　電氣馬力數又ハ「ワット」數

原動力蒸汽式ニ在リテハ左ノ事項ヲ記スヘシ

一　汽罐ノ種類及個數（直立罐、多管式等ノ別）

二　汽罐ノ寸法（罐胴、火筒、火管ノ長徑）

三　罐板ノ種類及厚サ

四　支柱ノ種類、個數、寸法及距離（質、徑等）

五　接合並鋲ノ種類、寸法、列數及距離（覆板、接合、累接、鋲質等）

六　安全瓣ノ種類、個數及寸法

七　常用汽壓

八　爐格ノ面積

九　製造所名及製作年月日並其ノ履歴

十　水壓試驗ノ年月日、場所及壓力

十一　燃料ノ種類及消費高（一日ニ付）

十二　汽機ノ種類及個數（横置、直立、單働、聯成等）

十三　汽筒ノ徑

十四　衝程ノ長サ

十五　回轉數

十六　實馬力

第二條　未成年者前條ノ許可ヲ願出ルトキハ法定代理人ノ許可證ヲ添付シ又法人ノ願出ニ係ルトキハ業務擔當社員ヲシテ願書ニ連署セシムヘシ

第三條　縣廳ハ營業ヲ許可スルニ當リ公安保持又ハ其ノ他ノ事項ニ關シ特ニ營業者ノ遵守スヘキ命令ヲ發スルコトアルヘシ

第四條　營業者營業所ニ住居セサルトキハ管理人ヲ定メ其ノ族籍、住所、氏名及生年月日ヲ記載シ縣廳ニ屆出ツヘシ其ノ變更シタルトキ亦仝シ

第五條　相續ニ依リ營業ヲ繼承セントスルトキハ其ノ旨屆出認可ヲ受クヘシ

第六條　乘合自動者ノ營業線路ハ路面有効幅員二間以上ノ道路ニ限ル　但シ土地ノ狀况ニ依リ必要アリト認ムルトキハ二間以内ト雖特ニ許可スルコトアルヘシ

第七條　營業ニ使用スヘキ車體及原動機ハ使用前縣廳ノ指定シタル日時場所ニ於テ檢査ヲ受ケ其ノ證ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス其ノ車体及原動機ヲ修繕若ハ變更シタルトキ亦同シ

車體及原動機ハ每年二回（四月、十月）指定ノ日時場所ニ於テ定期檢査ヲ受クヘシ

第八條　車體及原動機ハ前條檢査ノ外臨時檢査ヲ行フコトアルヘシ

第九條　定期及臨時檢査ニ依リ危險又ハ不体裁ノ事實アリト認メタルトキハ改造、修繕若ハ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十條　車體及原動機檢査ノ場合ニ於テ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ解剖スルコトアルヘシ　但シ其ノ費用及損害ハ凡テ營業者ノ負擔トス

第十一條　自動車ハ一輛毎ニ運轉手及車掌一名ヲ置クヘシ　但シ車體ノ構造ニ依リ特ニ縣廳ノ認可ヲ受ケ運轉手ヲシテ車掌ノ業ヲ兼子シムルコトヲ得

第十二條　營業者ニ於テ運轉手、車掌ヲ雇入レントスルトキハ其ノ族籍、住所、氏名及生年月日營業者自ラ運轉手若ハ車掌ノ業ニ從事セントスルトキ亦同シ

第十三條　營業者ハ毎年二回（四月、十月）又ハ臨時ニ縣廳ノ指定スル日時場所ニ於テ運轉手及車掌ノ鑑札並服裝ノ檢査ヲ受ケシムヘシ

第十四條　營業者ハ車体内賭易キ個所ニ車体檢査證、乘客定員、賃錢表及運轉手並車掌ノ氏名ヲ掲出スヘシ

第十五條　廣告類ハ客車內天井以外ニ掲出スヘカラス

第十六條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業者ヨリ三日以內ニ縣廳ニ屆出且第三號及第四號ノ場合ハ許可証鑑札又ハ車体檢査証ノ書換若ハ再渡ヲ請フヘシ

一　法定代理人若ハ業務擔當社員ノ住所、氏名ヲ變更シタルトキ

二　法定代理若人ハ業務擔當人ヲ變更シタルトキ

三　營業者運轉手及車掌ノ族籍、住所又ハ氏名ニ異動ヲ生シタルトキ

四　許可証、鑑札及車体檢査証ノ亡失、毀損若ハ字体不明ニ至リタルトキ

第十七條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業者ヨリ五日以內ニ縣廳ニ屆出許可証、鑑札又ハ車体檢査証ヲ返納スヘシ但シ營業者死亡シタルトキハ戶主又ハ相續人若ハ之ニ代ハルヘキ者ヲ以テ屆出義務者トス

一　營業ヲ廢シタルトキ

二　車体及原動機ノ使用ヲ廢止シタルトキ

三　運轉手又ハ車掌ヲ解雇シタルトキ

四　營業者、運轉手及車掌ノ死亡シタルトキ

第十八條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ全部又ハ一部ノ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ縣廳ニ於テ指定シタル期限內ニ營業ヲ開始セサルトキ

二　休業六ケ月以上ニ至リタルトキ

三　本則ニ違背シ處罰ヲ受ケ仍改悛ノ情ナシト認ムルトキ

四　公安又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

五　許可ノ際命令シタル事項ヲ遵守セサルトキ

第十九條　運轉手及車掌ニ於テ本則ニ違背シ其ノ他不正ノ行爲アリト認ムルトキハ鑑札ノ返納ヲ

命スルコトアルヘシ

第二章　車体及附屬品ノ制限

第二十條　車体ハ堅牢ニシテ其ノ構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　車ハ護謨製ニシテ四輪以上トシ適當ナル制動器及警鈴ヲ備ヘ且ツ夜間ハ別ニ自動的警鈴ヲ備フヘシ

二　車体ハ漆塗ニシテ相當ノ屋根又ハ母衣ヲ備フヘシ

三　車輪ニハ泥除ヲ設クヘシ

四　車体前面ノ兩側ニハ青色硝子燈各一個後面ニハ紅色硝子燈一個ヲ備フヘシ

五　車体ハ交通上障害トナラサル適當ノ廣袤トシ客坐ハ清潔ニ装置シ一人ノ座幅一尺二寸以上トス

六　乘客ノ昇降口ニハ堅牢ナル踏段ヲ付スヘシ

七　車体兩側面ノ睹易キ個所ニ車体檢査証ノ番號ヲ長サ三寸以上ノ羅馬數字ヲ以テ明記スヘシ

第三章　營業者運轉手及車掌ノ資格並服装

第二十一條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ營業ヲ許可セス

一　營業經營ノ資力ナシト認ムル者

二　公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ス行爲アリト認ムル者

三　營業ノ認可ヲ取消サレ滿三ケ年ヲ經過セサル者

第二十二條　運轉手ハ滿二十歳以上ニシテ機械運轉ノ技能アリト認メタル者ニ限リ又車掌ハ滿十八年以上ニシテ各左記各號ノ一ニ該當セサル者タルヘシ

一　暴行ノ癖アル者

二　強窃盜、猥褻、姦淫ノ罪ニ依リ處罰セラレ改悛ノ情ナキ者

三　素行不良ニシテ風俗ヲ紊ス虞アル者

四　運轉手又ハ車掌鑑札ノ返納ヲ命セラレ仍改悛ノ情ナキ者

第二十三條　運轉手及車掌ノ服装ハ左ノ制限ニ從フヘシ　但シ破損又ハ汚染シタルモノヲ着用シ及着用セシムヘカラス

一　運轉手及車掌ハ紺又ハ黒色ノ洋服ヲ着シ及同色ノ帽子ヲ冠リ靴ヲ穿ツヘシ　但シ夏期ハ帽子ニ白ノ日覆ヲ用ヰ白服ヲ着スルコトヲ得

二　雨具ハ羅紗製ノ外套及帽覆ヲ用フヘシ

第四章　運轉手及車掌就業ノ制限

第二十四條　運轉手及車掌ハ自己ノ業務ヲ他人ニ依託スルコトヲ得ス

第二十五條　運轉手及車掌ハ就業中鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ乘客ノ求メアリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第二十六條　運轉手及車掌ハ酩酊シタルトキハ其ノ業ニ就クコトヲ得ス

第二十七條　運轉手及車掌ハ頬冠、鉢卷其ノ他醜体ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　運轉手及車掌ハ行車中飲食、喫烟又ハ放歌等ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條　運轉手ハ就業中左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　自動車行動中其ノ位置ヲ離ルヘカラサルコト

二　自動車ノ速度ハ許可哩數ヲ超過スヘカラサルコト

三　原動力蒸汽式又ハ瓦斯式ニ在リテハ發車前ニ於テ水槽ノ水量及燃料不足ナキヤ否ニ注意スルコト

四　車体及原動機ハ常ニ注意シ運轉上ヨリ生シタル危險ノ事故ハ直ニ其ノ顛末ヲ具シ最寄警察官署ニ屆出ツルコト

五　自動車ヲ併行シ又ハ車馬等ト競走スヘカラサルコト

六　自動車二輛以上同方向ヘ行進スルトキハ後車ハ前車ニ對シ三十間以上ノ距離ヲ保ツコト

七　進路ニ步行者又ハ車馬アルトキハ二十間以上ノ距離ニ於テ警鈴ヲ鳴ラシ前者覺知セサルトキハ直ニ駐車スルコト

八　往來雜踏又ハ街角、橋上等ヲ通過スルトキハ絕ヘス警鈴ヲ鳴ラシ徐行スルコト

九　坂路ヲ下ルトキハ必ス制動器ヲ用ヰ絕ヘス警鈴ヲ鳴ラシ徐行スルコト

十　夜間ハ必ス制規ノ燈火ヲ点シ行進スルコト

十一　街角、橋上其ノ他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ駐車スヘカラサルコト

十二　通行及避讓方ハ左ノ例ニ依ルヘシ

イ　車馬道ノ設ケアル場所ハ左側ヲ行進シ其ノ設ケナキ場所ハ中央ヲ行進スルコト

ロ　牛馬及諸車ニ對シテハ左側ニ避ケ軍隊、砲車幷輜重車ニ對シテハ右側ニ避クルコト但シ避ケ難キ場合ニ於テハ其ノ場ニ駐車スヘシ

ハ　空車ハ貨車ニ對シテ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スルコト

ニ　後車前車ニ先チ行進セントスルトキハ後車ハ警鈴ヲ鳴ラシ前車ハ左側ニ避ケ後車ハ其ノ右側ヲ通過スルコト

ホ　郵便用、消防用、撒水用ニ供スル車馬及生徒ノ隊伍幷葬送等ノ行列ニ對シテハ其ノ行進ニ障害ヲ與ヘサル樣駐車又ハ避讓スルコト

ヘ　軌道ニ據ル諸車ノ行進ニ對シテハ軌道外ニ避ケ其ノ軌道ヲ橫切ラントスルトキハ車ノ通過ヲ俟テ行進スルコト

ト　街角ヲ通行スル際ハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スコト

第三十條　車掌ハ就業中左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一　車体ヲ淸潔ニスルコト

二　老幼及婦女等昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ加フルコト

三　客坐以外ニ乘客ヲ搭載スヘカラサルコト

四　强テ乘車ヲ勸メ又ハ他人ニ對シ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラサルコト

五　乘客中粗暴、躁亂又ハ他人ニ妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムルコト

六　乘客定員ノ半數ニ充チタルトキハ發車ヲ拒ムヘカラサルコト　但シ正當ノ事由アルトキハ

此限リニアラス

七　名義ノ如何ニ拘ハラス乗客ニ對シ定額賃錢外ニ金品ヲ請求スヘカラサルコト

八　定員外ニ乗客ヲ搭載スヘカラサルコト　但シ三歳以上十歳未満ノ者ハ二人ヲ一人ト見做シ三歳未満ノ者ハ定員外トス

九　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ搭載スヘカラサルコト

イ　八種傳染病者其ノ他乗客ニ於テ厭忌スヘキ疾病ニ罹リタル者

ロ　精神病者、暴行者、乱酔者及危険ノ獣類　但シ相當ノ保護者アルカ又ハ一車ヲ仕切リ搭載スル場合ハ此限ニアラス

ハ　死体、遺骨、汚穢物其ノ他悪臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品

ニ　發火質ノ物品

第五章　乗車賃錢

第三十一條　營業者乗車賃錢額ヲ定メントスルトキハ縣廳ニ屆出認可ヲ受クヘシ其ノ變更セントスルトキ亦同シ

第三十二條　前條ノ賃錢額ハ營業所、駐車場及車内ノ暁易キ個所ニ掲示スヘシ

第六章　駐車場

第三十三條　駐車場ノ位置ハ縣廳ノ指定スル所ニ依ル　但シ營業者ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ縣廳ノ許可ヲ得テ指定地以外ニ之ヲ設置スルコトヲ得

第三十四條　駐車場ヲ建築シ變更シ又ハ新設セントスルトキハ左記ノ事項ヲ具シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其ノ敷地及家屋ニシテ借受ニ係ルモノハ處分權者ノ連署ヲ要ス

一　敷地ノ圖面及坪數

二　建物ノ圖面（平面、側面、縱斷面圖）及構造仕様書

三　工事落成期限

第三十五條　前條ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受ケタル後使用スヘシ

第三十六條　駐車場ヲ廢止セントスルトキハ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三十七條　駐車場ニハ乗合自動車某地駐車場ト記シタル標札ヲ掲クヘシ

第三十八條　駐車場以外ニ自動車ヲ置クヘカラス

第三十九條　駐車場ハ常ニ清潔ニ掃除スヘシ

第七章　雜則

第四十條　第三條ノ場合及管理人ノ營業行爲ニ關シテハ法定代理人又ハ法人代表者若ハ營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第八章　罰則

第四十一條　第一條、第四條、第五條、第七條、第十一條乃至第十七條、第二十條、第二十三條

乃至第三十二條及第三十四條乃至第三十九條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

●富山縣令第八十九號

明治三十六年十二月四日

明治二十七年五月富山縣令第三十五號消防組設置區域及人員表ニ左ノ通追加ス

消防組名稱	消防組設置區域	消防組定員	部別	小頭及消防手配置
作道消防組	射水郡作道村ノ内 大字作道村 大字久々湊村	六十六人 内 組頭 一人 小頭 四人 消防手 六十一人	第一部	小頭 二人 消防手 三十人
			第二部	小頭 二人 消防手 三十一人

●富山縣令第九十九號

明治三十六年十二月二十九日

明治三十一年十一月富山縣令第六十四號藝妓取締規則第五條以下左ノ通改正ス

第五條 藝妓ハ貸座敷、料理屋、飲食店、待合茶屋及宿屋營業者ノ家宅ニ居住スルコトヲ得ス但シ娼妓稼業ヲ兼ヌル者ハ此限リニアラス

第六條 藝妓ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一 娼妓稼業ヲ兼ヌル者ハ貸座敷ニ居住スヘク且貸座敷以外ニ於テ其ノ業ヲ爲スヘカラサルコト

二 客ニ遊興ヲ勸メ又ハ自宅ニ遊客ヲ宿泊セシムヘカラサルコト

三 他人ノ家宅ニ宿泊セントスル者ハ所轄警察官署ニ屆出ツルコト

第七條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ヲ停止シ又ハ免許證ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

一 本則ニ違背シテ處罰ヲ受ケ仍改悛ノ情ナキ者

二 公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊ス虞アリト認ムヘキ者

第八條 第一條乃至第六條ニ違背シ若ハ營業停止命令期間中ニ營業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●富山縣令第百號

明治三十六年十二月二十九日

印版業取締規則左ノ通相定ム

印版業取締規則

第一條 本則ニ於テ印版業ト稱スルハ印章及諸證劵等ノ版面ヲ彫刻、鑄造又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ作成販賣シ若ハ請賣ヲ爲ス業務ヲ謂フ

第二條 印版業ヲ爲サントスル者ハ族籍、住所、氏名、年齡及左記ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ免許ヲ受クヘシ

一 營業ノ種類（彫刻、鑄造、石版、請賣等ノ別）

二 營業所ノ位置

第三條 職工及徒弟ヲ使用セントスルトキハ其ノ族籍、住所、氏名及年齡ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

第四條 左記各號ノ一ニ該當スル者ニハ營業ヲ免許セス

一 年齡二十年未滿ノ者

二 官印官文章及私印私書ニ關スル罪ニ依リ公判若ハ豫審ニ附セラレタル者又ハ其ノ他ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑期滿了後滿三年ヲ經過シ仍改悛ノ情ナキ者

三 他人ニ對シ民事刑事ノ訴訟ヲ爲スコトヲ煽動、教唆若ハ勸誘スル虞アル者

四 印版業ノ免許ヲ取消サレ滿三年ヲ經過シ仍改悛ノ情ナキ者

五 前各號ノ外公安ヲ害スル虞アリト認ムル者

第五條 前條第二號乃至第五號ニ該當スル職工及徒弟ハ營業者ニ其ノ使用ヲ認可セス

第六條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テハ戶主又ハ之ニ代ルヘキ者ヲ以テ屆出義務者トス

一 族籍、住所、氏名ニ異動アルタルトキ

二 職工及徒弟ノ使用ヲ廢止シタルトキ

三 營業所ノ位置ヲ變更シタルトキ

四 營業ノ種類ヲ增減シ又ハ廢業シタルトキ

五 死亡シタルトキ

第七條 營業者ハ樣式ノ帳簿ヲ調製シ表紙ニ紙數ヲ記シ使用前所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ但シ本條乃至第九條ハ商賣業者ニ適用セサルモノトス

第八條 印版ノ注文ヲ受ケタルトキ及出來合若ハ注文ノ印版ヲ交附シタルトキハ其ノ都度各樣式ニ依リ直ニ記載スヘシ

第九條 帳簿ハ記帳后滿十个年以上保存スヘシ但シ保存期滿了后廢棄セントスルトキハ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第十條 營業者ハ店頭ノ睹易キ箇所ニ樣式ノ看板ヲ揭出スヘシ

第十一條 營業者ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一 官公署、學校、社寺、銀行、會社其ノ他組合等ノ團体ニ關スル印章若ハ諸證券ハ其ノ代表者又ハ代理者若ハ調度ノコトヲ掌ル主任者ヨリ直接ニ注文アリタル場合ノ外之ニ應セサルコト

二 官職名ヲ刻スル印章ハ其ノ官廳ニ於テ調度ノコトヲ掌ル主任者ヨリ直接ニ注文アリタル場合ノ外之ニ應セサルコト

三 前二項ノ場合ニ於テ其ノ注文ニ應シタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ屆出ツルコト

四 身元詳ナラサル者ヨリ注文ヲ受ケ又ハ注文者及買受人ノ言行等不審ノ廉アルトキハ速ニ警察官吏ニ申告スルコト

第十二條 警察官吏ハ營業ニ關スル印版及帳簿類ヲ点檢スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ營業者

之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 左記各號ノ一ニ該當スルトキハ營業ノ免許ヲ取消シ又ハ停止シ若ハ職工及徒弟ノ使用認可ヲ取消スコトアルヘシ

一 營業者本則ニ違背シテ處罰ヲ受ケ仍改悛ノ情ナキトキ

二 營業者、職工及徒弟ニシテ本則第四條第二號、第三號及第五號ニ該當スルトキ

第十四條 營業上ニ關シテハ家族、雇人、職工及徒弟ノ所爲ト雖モ營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第十五條 同業組合規約ヲ設ケントスルトキハ所轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十六條 第二條第三條第六條乃至第十一條ニ違背シ又ハ第十二條ノ点檢ヲ拒ミタルトキ及停止命令期間中ニ其ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第十七條 從來ノ營業者ハ明治三十七年一月三十一日迄ニ本則第二條及第三條ニ依リ免許若ハ認可ヲ得ルニアラサレハ其ノ業ヲ繼續シ又ハ職工及徒弟ヲ使用スルコトヲ得ス

第十八條 看板及帳簿ハ左ノ樣式ニ依ルヘシ

看板(木製)長一尺五寸幅五寸

印版(彫刻、鑄造、石版、謄寫)業 住所 氏名

帳簿樣式

寫影簿ヲ調製スルトキハ注文簿ノ第七欄及交附簿ノ第四欄ヲ省略スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ氏名ノ上ニ寫影簿ノ番號ヲ記スヘシ

一 印章(版面)注文簿

欄	項目	記載
一	番號	第何號
二	注文者住所氏名	族籍住所職業 (寫影簿第何號) 氏名
三	注文年月日	明治 年 月 日
四	印章(版面)ノ種類及數	象牙又ハ水晶質、認印又ハ銅版何証券幾個(再刻)
五	彫刻鑄造者印	
六	交付年月日	明治 年 月 日
七	印(版)影	

記載例第一欄乃至第四欄ハ注文ヲ受ケタルトキ其ノ他ノ各欄ハ交附ノ際記載又

ハ押捺シ且ツ印(版)影ニ據リ注文ニ應シ同一ノモノヲ作成スルトキハ第四欄ニ再刻ト朱書スヘシ

二出來合印章(版面)交附簿

一 番號	二 交付年月日	三 印(版)材	四 印(版)影	五 住所氏名
				(寫影簿第何號)

三印章(版面)寫影簿

第何號

注文(出來合)簿第何號

印(版)影

明治三十六年五月八日

警察署　警察分署

●富山縣訓令甲第三十三號

明治三十五年二月富山縣訓令甲第十一號荷車取締規則取扱手續別冊ノ通改正ス(別冊ハ別ニ頒付ス)

明治三十六年九月十八日

警察署　警察分署

●富山縣訓令甲第六十五號

料理屋飲食店及待合茶屋取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム(別冊ハ別ニ頒付ス)

明治三十六年九月十八日

警察署　警察分署

●富山縣訓令甲第六十六號

明治三十六年九月富山縣令第五十二號浴場營業取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム(別冊ハ別ニ頒付ス)

明治三十六年九月十八日

警察署　警察分署

●富山縣訓令甲第六十七號

明治三十六年九月富山縣令第七十三號募集金品取締規則取扱手續別冊ノ通相定ム(別冊ハ別ニ頒付ス)

●富山縣告示第五十二號

岐阜縣ニ於テ荷車取締規則左ノ通定メタル旨同縣ヨリ通知アリタリ

明治三十六年三月二十日

荷車取締規則

第一條　本則ニ於テ荷車ト稱スルハ貨物運搬ノ用ニ供スル諸車ヲ云フ

第二條　荷車所有者ハ其ノ住所氏名ヲ車体ノ右側揭易キ所ニ明記スヘシ

第三條　荷車ノ所有者ハ所轄警察官署ノ檢印ヲ受クヘシ其ノ檢印ナキモノハ使用スルコトヲ得ス

但車輪ニ修繕ヲ爲シタルトキ亦同シ

第四條　荷車ノ車輪齒幅ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　牛車　　三寸以上

一　馬車　　二寸以上但四輪車ニ在リテハ前部車輪齒幅ヲ一寸八分ニ減スルコトヲ得

一　荷車　　一寸二分以上

第五條　耕作上又ハ飲食其他商品等輕量ノ物品搭載ニ專用スル荷車ハ前條ノ制限ヲ掛酌スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ所轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

第六條　車輪ノ齒幅ハ扁平ニ爲スヘシ

第七條　積荷ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スヘカラス

一　容積ハ荷台ヨリ高サ六尺以內前后左右ノ出幅各一尺以內
　但竹木其他分割スヘカラサル物件又ハ藁秣等輕量ナルモノハ此限ニアラス

二　重量ハ牛馬車百貫目以內其ノ他ノ荷車ハ百貫目以內

第八條　前條ノ制限外ニシテ分割スヘカラサル重量物件ヲ運搬セムトスル者又ハ荷車二輛ヲ連繫シテ貨物ヲ運搬セムトスル者ハ發送地所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第九條　十五年未滿ノ者ヲシテ牛馬ノ索綱ヲ把ラシ又ハ二十五貫以上ノ貨物ヲ積載シタル荷車ヲ挽カシメ又ハ十年未滿ノ者ヲシテ貨物ヲ積載シタル荷車ヲ挽カシムヘカラス

第十條　牛馬ニ對シ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第十一條　狂躁ノ癖若クハ疾患アル牛馬ヲシテ荷車ヲ挽カシムヘカラス

第十二條　牛馬車ニハ馭者台ノ設備アルモノ、外口取人ナクシテ乘車スヘカラス

第十三條　牛馬ノ口綱ハ三尺以內ヲ把持スヘシ

第十四條　荷車二輛以上連續シテ進行スルトキハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保ツヘシ

第十五條　牛馬車ヲ一時路傍ニ停止スルトキハ牛馬ノ奔逸セサル樣繫留スヘシ

第十六條　街角橋上其他交通ノ障害トナルヘキ場所ニ於テ荷物ノ積卸又ハ駐車若ハ牛馬ニ飼飮セシムヘカラス

第十七條　夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第十八條　荷車ハ跡押ノミニテ行車スヘカラス

第十九條　橋欄、電柱、指導標、里程標、牆壁其ノ他ノ建設物又ハ標識ニ牛馬ヲ繫キ又ハ車体ヲ觸レシムヘカラス

第二十條　本則第二條第三條第五條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第二十一條　從來使用ノ荷車ニシテ本則第四條ノ制限ニ適合スルモノハ明治三十六年一月三十一日

當日限リ第三條ノ手續ヲナスヘシ其ノ適合セサルモノニシテ改造又ハ大修繕ヲ為サヽルモノハ検印ヲ要セス明治三十七年十月三十一日限リ使用スルコトヲ得

第二十二條　本則ハ明治三十六年二月一日ヨリ施行ス

●第十三類　衛生

●富山縣令第四十九號　明治三十六年六月十九日

醫師下痢患者ヲ診察シ若クハ其ノ死体ヲ検案シタルトキハ十二時間以内ニ患者若クハ死者ノ住所氏名ヲ管轄警察官署、巡査部長派出所、巡査駐在所又ハ巡査派出所ニ書面若クハ口頭ヲ以テ届出ツヘシ

前項ノ届出ヲ為サヽル者又ハ醫師ニ請託シテ前項ノ届出ヲ為サシメス若クハ其届出ヲ妨ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●富山縣令第五十號　明治三十六年六月十九日

明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法第二條ニ依リ赤痢病ノ痢似症ニ對シ同法ヲ適用ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●富山縣令第五十七號　明治三十六年八月七日

傳染病豫防ノ為メ本年十月三十一日迄ノ間左ニ記載スル者ハ本令ニ依リ消毒的清潔法ヲ實施スヘシ違フ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

一　宿屋、料理店、飲食店、貸座敷、湯屋等ノ便所ハ毎日午前十時迄ニ掃除シ消毒藥ヲ投入シ其家屋ニ沿ヒタル溝渠下水路ニ惡水汚物ノ停滯セサル樣時々浚渫スヘシ

二　劇場、興行場、遊技場、說敎場、多數ノ職工ヲ使用スル工業場及公衆ヲ集合セシムル場所ハ其開設又ハ集合中ハ毎日一回以上便所ノ掃除ヲ爲シ消毒藥ヲ投入スヘシ

三　街頭便所ハ掃除請負人、人力車、馬車、駐車場ノ便所ハ其ノ持主ニ於テ毎日一回以上掃除ヲ爲シ消毒藥ヲ投入スヘシ

四　魚商、理髮店、豆腐屋、獸屋及牛乳搾取所ノ家屋ニ沿ヒタル溝渠下水路ニ惡水汚物ノ停滯セサル樣時々浚渫スヘシ

明治三十六年九月五日

●富山縣令第七十號

明治三十四年四月法律第三十五號畜牛結核病豫防法及明治三十六年五月農商務省令第四號畜牛結核病豫防法施行規則ニ關スル同細則左ノ通リ相定ム

畜牛結核病豫防法施行細則

第一條　畜牛檢査ノ時限ハ所轄警察官署ヨリ所有者又ハ管理者ニ告知ス

第二條　畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ檢査時限ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ開始時限三時間前ニ檢査所ニ畜牛ヲ索付ケ置クヘシ

第三條　檢査ノ爲メ畜牛ヲ索出ストキハ疲勞ヲ感セシメサル樣特ニ注意スヘシ

第四條　畜牛檢査ノ場合ハ牛体ヲ淸潔ニシ繫留具ヲ强固淸淨ニシ且防暑防寒及二日以上ノ飼料等ヲ準備スヘシ

第五條　左記各號ノ一ニ該當シ檢査ノ猶豫ヲ請ハントスルトキハ第一號及第二號ノ場合ハ獸醫ノ診斷書第三號ノ場合ハ事情ヲ詳記シ所有者又ハ管理者ヨリ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ但シ事實審按ノ爲メ畜舍ニ就キ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

一　分娩前一个月以内及產後十日以内ノモノ

二　結核病以外ノ疾病又ハ傷痍ニ罹リタルモノ

三　逸走其ノ他正當ノ事故アルモノ

第六條　畜牛ノ健康證ハ屠殺及斃死ノ場合ハ十日以内ニ所轄警察官署ニ返納シ毀損及亡失ノ場合ハ所有者又ハ管理者ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

附　則

第七條　本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十六年九月二十五日

●富山縣令第七十七號

明治三十三年十月富山縣令第八十二號娼妓健康診斷規則第二條第五條第一項ヲ左ノ通リ改正ス

第二條　娼妓ノ健康診斷ハ毎週一回娼妓病院ニ於テ檢査醫之ヲ行フ

第五條　娼妓健康診斷當日疾病ニ罹リ出頭シ難キ者ハ主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ檢査時間前ニ屆出ツ

置ヘシ

●富山縣令第七十八號　明治三十六年九月二十五日

明治三十三年十月富山縣令第八十三號娼妓病院規則ヲ左ノ通改正ス

娼妓病院規則

第一條　娼妓病院ハ娼妓ノ疾病ヲ治療スル所トス

第二條　娼妓病院ニハ診察所、調劑所、事務室、病室、浴室其ノ他必要ナル室ヲ設クヘシ

第三條　娼妓病院ニハ治療醫、調劑師、看護婦等ヲ常置スヘシ

第四條　娼妓病院ニハ治療ニ要スル器械及藥品ヲ備付クヘシ

第五條　娼妓病院ニハ娼妓ノ健康診斷ヲ行フニ必要ナル場所ヲ設ケ置クヘシ

第六條　娼妓病院ニハ別紙書式ノ患者名簿ヲ備ヘ治療ノ經過ヲ記載スヘシ

第七條　娼妓病院ニ關スル一切ノ費用ハ貸座敷主ノ負擔トス

第八條　患者ニ附添人ヲ要シ又ハ入院中已ムヲ得ス外出ヲ要スルトキハ所轄警察署官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　治療醫ヲ選任シタルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十條　娼妓病院ハ所轄警察官署ノ監督ニ屬ス

附　則

第十一條　本則ハ明治三十六年十月一日ヨリ施行ス

（患者名簿書式）

病症	樓名	入院月日	退院月日	種別／月日	處方			
姓名　何某　年齢	妓名				經過狀況			

三十六年十二月縣令第九十號ヲ以テ改正

●富山縣令第七十九號　明治三十六年九月二十五日

明治三十二年六月富山縣令第七十七號鍼灸按摩營業取締規則左ノ通改正ス

鍼灸及按摩營業取締規則

第一條　鍼灸又ハ按摩營業ヲ爲サントスル者ハ左記各號ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

一　營業者ノ住所氏名及年齡
二　一定ノ營業場ヲ設クルモノハ其位置
三　履歴書及修業證明書

第二條　鍼灸又ハ按摩營業ハ左ノ資格ヲ有スル者ニアラサレハ免許セス

一　年齡滿二十年以上ニシテ品行方法ナル者
二　三年以上鍼灸術又ハ按摩術ヲ修業セシ者

第三條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ營業ヲ免許セス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
二　私カニ營業ヲ爲スノ形迹アルト認ムル者
三　刑法第四百廿七條第十二號及營業上ニ關スル罪ヲ犯シテ處罰セラレタル後滿三年ヲ經過セサル者

第四條　營業者ハ左ノ所業ヲ爲スコトヲ得ス

一　醫師治療中ノ患者ニ對シ主治醫ノ指揮ヲ得スシテ施術ヲ爲スコト
二　施術ノ際藥劑ヲ用ユルコト
三　神佛ノ夢想ト稱シ又ハ無稽ノ說ヲ稱ヘテ施術ヲ勸誘スルコト
四　蛭又ハ其他ノ手段ヲ用ヰテ放血ヲ爲シ及醫術ニ屬スル所業ヲ爲スコト
五　受術者ニ對シ服用ニ充ツヘキ藥劑ヲ指示シ又ハ其ノ購求ヲ勸誘スルコト
六　免許鑑札ヲ他人ニ貸與又ハ讓與スルコト

第五條　營業者ハ左ノ看板ヲ掲クヘシ

長一尺
橫三寸

鍼灸（按摩）營業　何　某

第六條　外出營業中ハ鑑札ヲ携帶スヘシ

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以內ニ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請求シ若クハ之ヲ返納スヘシ但シ失踪及死亡ノ場合ハ戶主又ハ相續人若クハ之ニ代ルヘキ者ヨリ屆出ヘシ

一　免許鑑札ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ
二　營業者ノ住所又ハ氏名ノ變更
三　他府縣ニ轉居シタルトキ
四　廢業シタルトキ
五　失踪又ハ死亡

第八條　警察官吏ハ營業者ノ家宅又ハ營業場ニ就キ營業ニ關スル諸器械及帳簿類ヲ檢閲スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ營業者之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　營業者ニシテ本則ニ違背シ又ハ公安ヲ害シ若クハ風俗ヲ紊スノ所爲アリト認ムルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十條　第一條及第四條乃至第八條第二項ニ違犯シ幷第九條ノ停止期間中營業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第十一條　從來免許ノ營業者ハ明治三十六年十月三十一日迄ニ本則第一條各號ヲ具シ免許狀ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ屆出更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ其ノ屆出ノ手續ヲ爲サヽル者ハ免許ノ効ヲ失フモノトス

●富山縣令第八十七號　明治三十六年十一月二十七日

明治三十四年五月富山縣令第六十二號氷雪營業取締規則施行細則中左ノ通改正ス

第八條　第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項飲料用ニ適セサル氷雪ニ對シ取締上必要ト認ムルトキハ着色セシムルコトアルヘシ

第十四條　氷雪營業者及請賣者ハ帳簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載シ置キ臨檢官吏ノ需メアリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

一　營業者ニ在リテハ買受人ノ住所氏名斤量及賣渡シタル年月日

二　請賣者ニ在リテハ製造場貯藏場卸賣人ノ住所氏名斤量及買受ケタル年月日

第十五條　營業上ニ關シテハ家族雇人ノ所爲ト雖營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第十六條　販賣ノ目的ニ非サル氷雪ヲ製造又ハ貯藏スル者ニ對シテハ本細則第一條乃至第四條ヲ準用ス

第十七條　本細則中雪ニ關スル免許ノ効力ハ一个年限リトス

第十八條　第二條乃至第八條第一項第九條及第十一條乃至第十四條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則第十七條ヲ第十九條ニ第十八條ヲ第二十條ニ繰下ク

●富山縣令第九十一號　明治三十六年十二月十一日

明治三十五年六月富山縣令第五十五號並本年六月富山縣令第四十九號及同第五十號ハ廢止ス

▲富山縣令第九十二號參照

富山縣令第五十五號(明治三十五年六月)ハ虎列剌疑似症ニ對シテハ傳染病豫防法ノ全部ヲ適

用ノ件

△同第四十九號(明治三十六年六月)ハ下痢患者屆出ノ件

同第五十號(明治三十六年六月)ハ赤痢疑似症ニ傳染病豫防法適用ノ件

●富山縣訓令甲第九號

明治三十六年二月六日

郡市　役所　警　察　署
警察　分署　町村　役場

天然痘ノ流行ハ之ヲ從來ノ事歷ニ徵スルニ其ノ多クハ冬期寒冷ノ際ニ發生シ而シテ漸次蔓延スルヲ例トセリ本縣ハ明治三十年ニ三百十四名ノ患者ヲ出セシ外爾來幸ニシテ未タ該患者ヲ見スト雖モ客年來韓國ニ於ケル流行ハ現時尙ホ猖獗ヲ極メ今ハ其ノ餘毒延テ我內地ニ侵入シ當時香川、山口ノ兩縣殊ニ山口縣下ニ於テハ日ヲ逐テ傳播ノ趣相聞エ前途甚タ掛念ニ堪エス就テハ本年春季ニ於ケル定期種痘ノ際ハ一層注意ヲ嚴密ニシ未種痘兒ハ勿論再三種ニ至ル迄遺漏レナク接種シ以テ不測ノ禍害ニ陷ラシメサル樣措置スヘシ

●富山縣訓令甲第二十三號

明治三十六年三月二十七日

郡市　役所　警　察　署
警察　分署　町村　役場

凶作地傳染病豫防上ノ件ニ付今回告諭ニ及ヒ候次第モ有之今ヨリ一層警戒ヲ要スヘキ時機ナルカ故ニ啻タ右趣旨ヲ徹底シ且ツ防疫準備ニアツテハ各法令ニ基キ時機ヲ失セサル樣措置シ尙ホ左記各項ヲ實施シ衛生上各般ノ危險保護ニ注意スヘシ

一　凶作地窮民部落ヘ巡査ヲ派遣間斷ナク狀況ヲ視察シ一面檢疫的戸口調査ヲ行フコト

一　衛生組長ヲ督勵シ淸潔法ヲ實行シ且ツ患者ノ隱蔽ナキコトニ努メシムルコト

一　町村醫ヲシテ窮民患者ノ檢診ヲ受クルニ便利ヲ得セシムルコト

一　病院病舍ヲ修理シ何時開クモ差支ナキ樣諸般ノ準備ヲ爲スコト

●富山縣訓令甲第二十七號

明治三十六年四月十日

郡市　役所　警　察　署
警察　分署　町村　役場

縣下凶作地被害窮民救濟方法ニ關スル諸般ノ施設事業ハ尙ホ未タ完全ナラサルノ憾ミナシトセス然ルニ大日本私立衛生會富山縣支會ノ事業トシテ今後窮民中ノ疾病者ニ對シ無料施療方申請ノ次第有之其目的蓋シ飢饉ニ伴フ老弱者ノ死亡疾病ノ數ヲ遞減シ且ツ惡疫ノ流行ヲ未發ニ防キ努メテ健康保全ノ道ヲ計ラントスルニ外ナラス故ニ之カ實行ニ際シテハ諸事便宜ヲ與フルハ勿論將來時々被害地ヲ巡視シ各個人ニ就キ衣食勞働其他諸般ノ關係ノ如何ニ各個人ノ健康上ニ影響ヲ及ホシツヽアルヤノ實況ヲ詳悉シ事ニ臨テ時機ヲ失セス速ニ適當ノ措置ヲ加ヘ以テ厚ク衛生保健ノ方法ヲ勵行スヘシ

●富山縣訓令甲第二十八號

市町村一般ノ定期大掃除ハ從來規則勵行ノ結果漸次其成績良好ノ域ニ進ミ執行上稍ヤ舊觀ヲ改メタリト雖トモ猶ホ義務者ニ於テ執行ヲ怠タリ警察力ニ依テ以テ遂行セラルヽモノ少カラス之レ未タ個人衞生思想ノ發達不充分ナルニ基クト雖トモ又多少自治行政當局者監督上ノ關係モナキニアラサルナリ今ヤ春季掃除施行ノ時機ニ際會スルカ故ニ掃除當日ニハ夫々吏員ヲ派遣清潔注意ヲ奬勵シ且ツ周密ナル監督ヲ行ヒ以テ規則ノ勵行ヲ期スヘク又凶作被害地ニ對シテハ特ニ執行上ニ留意シ成ヘク消毒的ノ方法ヲ講シ病毒ヲシテ凶作地ヲ犯スニ至ラサラシメンコトヲ務ムヘシ

明治三十六年四月十一日

郡市役所　警察署
警察分署　町村役場

●富山縣訓令甲第四十三號

明治三十六年六月十九日

郡市役所　警察署
警察分署　町村役場

本年縣下ニ於ケル實布垤利亞病患者初發以來ノ總數ハ四十四名ニシテ内死亡セシ者十八名ノ多キニ上レリ元來實布垤利亞病患者ハ血淸治療法發見以來著シク死亡數ヲ減シタル而已ナラス治療ノ時機ヲ失セサルトキハ或ル場合ヲ除クノ外ハ死ニ至ルモノニアラストノ定説アルニモ拘ハラス斯ク多數ノ患者及死者ヲ出セルハ畢竟豫防法ノ周到ヲ欠キ血淸治療ノ時機ヲ誤リタルニ基クモノナラン就テハ自今一層豫防法ヲ勵行シテ其發生ヲ未然ニ防クト同時ニ普ク血淸治療法ノ確實ニシテ卽効アルコトヲ知ラシメ以テ該病ノ發生及死亡數ヲ減セシムル樣取計フヘシ

●富山縣訓令甲第四十八號

明治三十六年七月十日

郡市役所　警察署
警察分署　町村役場

畜牛結核病ノ病性甚タ頑固ニシテ不治ノ難症ナルハ人ノ熟知スル處ナリ而シテ其病菲人畜ニ感染シ殊ニ乳肉ノ媒介ニ依テ感染セシ例尠カラス實ニ可怕ノ疾病ナリトス其感染ハ陰微ノ中ニ存シ感受スルモ又直チニ顯著ノ異常ヲ呈セサルニ依リ不知不識等閑ニ付シ去リ遂ニ大患ニ陷ルヲ常トス今回實施ノ畜牛結核病豫防法ハ社會ノ進運ニ鑑ミ專ラ人畜ノ衞生ヲ主トシテ制定發布サレタルモノナルヲ以テ之カ執行ノ任ニ當ルモノハ誠意以テ其實効ヲ期セサルヘカラス尙ホ畜牛ノ所有者及管理者ニシテ法令ノ主旨ヲ誤解シ屆出ヲ怠リ或ハ檢査ヲ忌避スルカ如キハ法ノ精神ニ違フノミナラス相當制裁モ之アルカ故ニ此際當業者ニ對シ特ニ注意シ畜牛結核病豫防法施行規則第二條ノ屆出ヲ爲サシメ遺憾ナキヲ期スヘシ

●富山縣訓令甲第四十九號

明治三十六年七月十二日

郡市役所　警察署
警察分署　町村役場

水害後掃除執行方ノ義ニ付今般第四號ヲ以テ諭告セシ通リ水災ノ被害ハ獨リ田畑家財ノ損失ニ止マラス忽チ衛生上ニ及ホス危害多大ナリトス若シ之ヲ輕々視スルトキハ不測ノ害ヲ將來ニ貽スヤモ知ルヘカラス且ツ目下虎列剌赤痢其ノ他ノ傳染病流行ノ時機ナルヲ以テ一層綿密ナル施行ヲ要シ候條此際災害ヲ蒙リタル家屋宅地其ノ他不潔ノ場所ハ水害後掃除規則ニ基キ嚴重執行ヲ了シ病毒醸生ノ餘地ナカラシムル樣鋭意警戒ヲ加フヘシ

明治三十六年十月二十三日

警察署　警察分署

●富山縣訓令甲第七十六號

三十七年四月訓令甲第三十九號ヲ以テ第三條改正

娼妓健康診察事務規程左ノ通相定ム

娼妓健康診察事務規程

第一條　娼妓ノ健康診斷ヲ行フ檢査醫ハ縣醫ヲ以テ之ニ充ツ

第二條　檢査醫ハ日勤トシ上官ノ指揮監督ヲ受ケ主管ノ事務ヲ掌理ス

第三條　檢査醫ハ警察部及高岡警察署魚津警察署ニ置キ受持區ヲ定メ勤務セシム

第四條　檢査醫ハ指定ノ期日ニ於テ娼妓病院ニ就キ娼妓ノ健康診斷ヲ行フヘシ

第五條　娼妓ノ健康診斷終リタルトキハ受診證ニ證印ヲ與フヘシ

●富山縣訓令甲第七十九號

明治三十六年十月三十日

郡市役所　警察署
警察分署　町村役場

本月三十日第十一號ヲ以テ告諭セシ通リ近時東京市及横濱市ニ於テ流行性腦脊髓膜炎發生稍ヤ蔓延ノ兆アリ該病ハ一種ノ傳染性疾病ニシテ惡性ニアリテハ之レカ爲メ死ヲ致シ或ハ癈疾ノ後患ニ罹ルモノ尠シトセス縣下ニハ未タ其流行ヲ見スト雖何日病毒侵襲スルヤモ計リ難ク其ノ豫防法ヲ講スルハ刻下ノ急務ニ屬ス依テ左記各號ニ準據シテ豫防法ヲ施行シ以テ同病ノ發生傳播ヲ防止スル樣相當措置スヘシ

一　理髮業者ニ對シテハ特ニ衛生的取締ヲ勵行スルコト

二　醫師流行性腦脊髓膜炎若ハ其ノ疑アル患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死体ヲ檢案シタルトキハ速ニ警察官署ニ屆出テシムルコト

三　前號ノ患者轉歸ノ場合モ亦同樣屆出テシムルコト

四　劇シキ頭痛、項部ノ强直、搐搦、痙攣痳痺、失神等流行性腦脊髓膜炎ニ疑ハシキ症候ヲ呈スル患者アル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシメ又ハ戸主、首長、若ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ直ニ警察官署ニ屆出テシムルコト

五　患者ハ成ルヘク他ノ健康者ヨリ隔離シ其ノ鼻汁、唾痰、襯衣、手巾、衣服、其ノ他患者ノ居住シタル室及病中使用シ病毒汚染ノ疑アル物件ハ消毒方法ヲ施行スルコト

六　同病患者發生スルカ若ハ之カ患者アルコトヲ覺知シタルトキハ直ニ其附近全体ニ對シ市町村醫ヲシテ健康診斷ヲ施行セシムルコト

明治三十六年十二月二十五日

郡市　役所
町村　役場

●富山縣訓令甲第九十號

兒童ノ種痘ハ種痘規則第一條ニ依リ出生後滿一年以内ニ之ヲ行ヒ不善感ノ者ハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行ハサルヘカラス若シ種痘ヲ受クヘキ者病氣其ノ他止ヲ得サル事故ノ爲メ公設種痘場開設ノ時期ニ於テ接種スルコト能ハサル場合ハ同細則第十一條ニ依リ病氣全快又ハ事故解除ノ後チ直チニ自費ヲ以テ種痘ヲ爲スヘキ規定ナリ然ルニ定期種痘表ニ依レハ中ニハ出生後三年乃至五年十年十五年以上ノ兒童ニシテ初種ノ者尠シトセス右ハ接種ノ普及ヲ鈌クノミナラス天然痘豫防ノ目的ヲ達スルコト能ハサル次第ナルヲ以テ自今一層注意ヲ加ヘ豫防上遺憾ナキヲ期スヘシ

明治三十六年三月二十七日

●富山縣告諭第二號

凶作飢饉年間ニ於テ流行性惡疫發生傳播慘狀ヲ極メタル事實ハ歴史ニ徵シ其實例尠カラス是畢竟凶作其モノト惡疫ノ關係ナシト雖トモ凶作ノ爲メニ生活ニ必要ナル衣食住ノ供給ニ不足ヲ來タシ最モ惡疫ノ流行ニ適當スルノ人民タルニ至ルヘケレハナリ而シテ之カ豫防救治ノ方法ハ困難ニシテ其實効ヲ期シ難キ敢テ言ヲ俟タサルナリ今ヤ縣下凶作地窮民ノ狀況ハ日ニ悲境ニ沈ミ營養ヲ損スル長キニ渉リ漸次暖氣ニ際シ且ツ各自身体ニ相當セサル勞働ニ就事スヘキ時機ナルヲ以テ禍害ノ慘一層今后ニ續出スル恐レナキ能ハス時季海陸其交通頻繁ノ折何時病毒ノ侵害ヲ蒙ムルヤモ難計今ニシテ豫防上警戒ヲ加ヘサレハ尚此上大慘害ヲ來タスヤモ計ラレス依テ各自ハ豫防攝生ニ注意シ若シ身体ニ異常ヲ覺エタルトキハ速カニ醫師ノ診斷ヲ求メ且居常家屋ノ内外ハ勿論身体衣服ノ淸潔ヲ保持シ過勞ヲ避ケ飲食物ニ注意シ以テ健康ヲ保全スルコトニ勗ムヘシ

明治三十六年七月十二日

●富山縣告諭第四號

今般縣下神通川庄川等ノ洪水ハ增水頗フル急ニシテ近年ニ見サル水量ニ達シ爲メニ沿岸被害ノ狀況愁慘ニ堪ヘサルモノアリ殊ニ家屋浸水地ハ家財ヲ他ニ充分搬出セシムル余暇ナクシテ汚水ニ浸シ單身避難シタル等其困難實ニ見ルニ忍ヒサル有樣ハ本官等其被害地ヲ實視シテ深ク感シタル所ナリ

抑モ水災ノ被害ハ田畑家屋家財ノ損害ニ止マラス家屋浸水地ニ在テハ居住地ヲ濕潤不潔ナラシメ且ツ一般飲料水ヲ惡シクセシニ依リ忽チ衛生上ニ及ホス危害少カラサルヲ以テ水害後ノ掃除ハ決シテ忽諸ニ附スヘカラス之ヲ既往ニ徵スルニ水害カ傳染病ノ發生ヲ容易ナラシムルカ媒介トナリシ實例ニ乏シカラス且ツ目下虎列剌赤痢其ノ他ノ傳染病流行ノ時機今ニシテ全病豫防法ヲ講策ス

ルニアラスンハ他日噬臍ノ悔アランモ知ルヘカラス故ニ此際衞生上處置スヘキ方法ハ當局者ニ於テ充分ニ盡スヘキモ尙ホ各自ニ於テ水害後掃除規則ヲ守リ公衆衞生上不測ノ災害ヲ招カサル樣一層注意スヘシ

● 富山縣告諭第五號

明治三十六年八月七日

近時縣下各地ニ虎列剌疑似症及赤痢病頻々トシテ發生シ稍ヤ流行ノ虞アリ而シテ其系統タル或ハ感染ニ出タルモノアリ或ハ原因不明ニ屬スルモノアリト雖モ要スルニ飲食物ノ不注意ヨリ發シタルモノ最モ多キヲ占ムルカ如シ加フルニ近來該二症ノ外ニ下痢症患者ノ屆出大ニ增加セルハ寔ニ恐ルヘキ兆候ナリトス然ルニ赤痢病ノ如キハ年々歲々其流行ヲ絕タサルヲ以テ恰モ地方病ノ如ク輕々視シ醫師ノ診療ヲ受クルコトヲ怠タリ爲メニ治癒ヲシテ緩慢ナラシメ或ハ不治ノ症ニ陷ル者アルノミナラス病毒ヲシテ他ニ傳播セシムルカ如キハ亦タ顧ミサルノ甚シキモノト云ハサルヘカラス殊ニ八九月ノ交ハ從來ノ經歷ニ徵スルモ赤痢病虎列剌病ノ流行最モ猖獗ヲ極ムルノ秋ナレハ當局者ニ於テモ之レカ防備ニ惰タラスト雖モ元來防疫ノ事タル個人一般ノ自衞攝生ヲ待タサレハ到底全効ヲ收メ難キヲ以テ自今各自ニ於テモ飲食物ノ注意ハ勿論居宅內外ノ掃除身体被服ノ淸潔等專ラ攝生ノ法ヲ講シ苟クモ疾病ニ罹リタル時ハ其ノ當初ニ於テ充分醫師ノ治療ヲ受ケ以テ病毒ノ釀生ヲ防キ自他ノ健康ヲ害セサル樣一層注意警戒スル所アルヘシ

● 富山縣告諭第十一號

明治三十六年十月三十日

近來東京市及橫濱市ニ流行性腦脊髓膜炎發生シ稍ヤ蔓延ノ兆アリ該病ハ一種ノ傳染性疾病ニシテ惡寒、發熱、眩暈、嘔氣、頭痛、項部ノ疼痛强直、痙攣、搐搦、半身痲痺、言語障害、人事不省等ノ症候ヲ顯ハシ多クハ急性ノ經過ヲ取リ而シテ小兒若ハ少壯者ヲ侵シ且ツ其ノ死亡比較的多數ナルノミナラス病後ニ於テ往々盲聾若ハ聾啞等ノ癈疾ヲ遺スコトアリ病毒傳播ノ經路ハ患者ノ排泄物就中鼻汁、唾痰、若ハ之ニ汚染シタル手巾、古紙、襯衣、衣服、其ノ他ノ物件ニ依リ直達又ハ空氣ヲ介シテ鼻腔、口腔等ヨリ侵襲スル場合最モ多シトス故ニ此際各自豫防攝生ニ一層重キヲ置キ若シ身体ニ異常ヲ覺エタルトキハ速ニ醫師ノ診療ヲ受ケ且ツ衣食住ノ淸潔寒冒ノ豫防患家トノ交通ニ注意シ以テ不測ノ禍害ニ陷ラサル樣深ク注意スヘシ

第十四類　統計

富山縣訓令甲第二十四號

明治三十二年二月富山縣訓令第十六號富山縣報告例日報中第二、衆議院議員當選人資格並履歴第三、衆議院議員選擧明細書第四、縣會議員選擧明細書月報中第一法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事項ニシテ定令ニ關スルモノ、件銘件數ヲ廢止シ年報中第一、第七、第一六、第二〇、第三一、第三四、第三七、第三八、第五五、第七〇、ヲ左ノ通改正追加ス

明治三十六年四月四日

郡市役所

年報

第一　郡傭人員月俸　明治何年十二月三十一日現在（進達期限一月十五日）何郡役所

職名		人員	月俸額
事務傭	十三圓以上		
	十三圓未満		
	日給		
	計		
給仕			
小使			
合計			

一俸給ハ十二月三十一日ノ現員ニ支給スヘキ一ケ月ノ給額ヲ掲載スヘシ但圓ニ滿タサル端數ハ四捨五入シテ圓位ニ止ムヘシ

一日給ヲ以テ支給スルモノハ三十日分ヲ以テ月俸額ニ改算スヘシ但公暇日ニ日給ヲ支給セサルモノハ二十五日分ヲ以テ月俸額ニ改算スベシ

一臨時傭ハ掲載スヘカラス

年報

第七　町村吏員　明治何年十二月三十一日現在（進達期限二月二十日）何郡役所

階級		人員	支給金額 日給	支給金額 報酬金	支給金額 合計
町村長	名譽職		円	円	円
	十圓以上				
	十圓未満				
助役	名譽職				
	十圓以上				
	十圓未満				
收入役	六圓以上				
	六圓未満				
書記	六圓以上				
	六圓未満				

階級		人員	支給金額 月給	支給金額 報酬金	支給金額 合計
事務傭	六圓以上		円	円	円
	六圓未満				
區長	名譽職				
仝代理者	仝				
常設委員	仝				
合計					

一年給及日給ノモノハ月給額ニ改算シ各項ノ計ニ於テ四捨五入シ圓位ニ止メ記載スヘシ

一年給及報酬金（年額）ハ之ヲ十二分シ其一分ヲ月額トシ日給ヲ以テ支給スルモノハ三十日分ヲ以テ月給額ニ改算スヘシ但公暇日ニ日給ヲ支給セサルモノハ二十五日分ヲ以テ月給額ニ改算スヘシ

一表中ニ掲クル日給及報酬金ハ十二月三十一日現員ニ支給スヘキ一ケ月ノ金額ヲ掲載スヘシ

一町村制第百十六條ニ依リタル町村行政全部ノ組合吏員ハ各其欄内ニ別記×印ヲ附スヘシ但一部ノ事務ノ爲メ設ケタル組合吏員ハ掲載スルヲ要セス

一委員ハ常設（臨時委員ハ省ク）ノ委員ニシテ町村會議員及町村公民中ヨリ選擧セラレシモノノミヲ掲クヘシ

一事務備ノ欄ニハ町村制ニ附屬員トアルモノ、內定備ニシテ事務ヲ執ル者ヲ掲クヘシ

一第六現住死亡者年齡別表種別中「外襲性及變死」トアルヲ「外襲性變死」ト改メ全部掲中「外襲性及變死」ノ內變死ノ欄ヲ削リ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一病類別ノ區分ハ三十五年二月本縣訓令乙第八號病類細目要領ニ基キ調査スヘシ

年報

第二〇　出入人口　明治何年十二月三十一日現在（進達期限四月十日）何郡市役所

出入別		男	女	計
他ヘ出	縣外ヘ出寄留			
	本縣下他郡市ヘ出寄留（次ノ四項ノ者ヲ除ク）			
	陸海軍在營艦兵卒			
	囚人懲治人			
	在臺灣			
	在外國			
	合計			
他ヨリ入	縣外ヨリ入寄留			
	本縣下他郡市ヨリ入寄留			
	合計			

一本表ハ每年十二月三十一日ヲ期トシ其郡市內外ノ出入寄留者等ノ數ニシテ翌年一月三十一日迄ニ知ルコトヲ得タルモノヲ記入スルモノトス

一本表調製方法ハ三十一年十一月本縣訓令第百六號ノ第三號表調製方ニ準シ記入スルモノトス

一第二一兵員表ニ左ノ備考ヲ加フ

一陸軍現役中未入營兵（輜重輸卒等ニシテ）アラハ其人員ヲ備考ニ掲記スヘシ

一第三四現住者職業別表ノ樣式及備考第一項ヲ左ノ通リ改正ス

第三四　現住者職業別　十二月三十一日（進達期限五月二十日）何郡（市）役所

種別	總數 男	總數 女	總數 計	市 滑川町 男	滑川町 女	滑川町 計	魚津町 男	魚津町 女	魚津町 計	新湊町 男	新湊町 女	新湊町 計	氷見町 男	氷見町 女	氷見町 計	其他 男	其他 女	其他 計
公務ニ從事スル者																		
布教ニ從事スル者																		

備考

一本表ハ每年十二月三十一日現住（本籍寄留ヲ問ハス）ノ人口ニ依リ戶主非戶主ヲ問ハス一家族中職業ヲ有スル者ハ洩ナク調査記入スルモノトス

但シ一人ニシテ他ノ職業ヲ兼ヌルモノハ其重キ一方ノ職業ニ就キ調査シ重復セサル樣注意スヘシ

年報

醫事ニ從事スル者	學校ノ職員及教員	銀行及會社員	辯護士	農業	山林業	牧畜業	商業	工業（製造業／職工）	漁業	鑛業	代書業	力役	坑夫	舟夫	遊藝稼人	雜業	右ニ記載セサル職業	無職業	合計

一第三七病死者月別表ノ進達期限ハ「六月十日」トアルヲ「三月二十日」トス

第三八 衛生雜事

明治何年十二月三十一日現在（進達期限六月十日）何郡市役所

郡市名＼種別	鍼術營業人	灸術營業人	按摩營業人
合計			

年報

一鍼、灸、按摩ヲ各兼業スル者ハ其數ヲ右傍ニ朱書シ單一ナルモノト區別記載スヘシ

記載例

鍼術營業人欄		灸術營業人欄		按摩營業人欄	
單一ノモノ（墨書）	五〇		四〇		七〇
兼業（朱書）灸、按	一五	鍼、按	一〇	鍼、灸	二〇
仝 灸	五	鍼	五	鍼	一五
仝 按	二	按	四	灸	一〇
合計	七二		五九		一一五
		（上欄ニ仝シ）		（上欄ニ仝シ）	

一第五五納税人員表ノ備考第二項ヲ左ノ通リ訂正ス

一 二種以上ノ税金ヲ納ムルモノ譬ヘハ國税ト縣税及市町村税トヲ兼ヌルトキハ直接國税

欄ニハ縣税ト市町村税トヲ兼ヌルトキハ縣税欄ニ算入ス

但シ市町村税欄ニハ單ニ市町村税ヲ納ムル者ノミヲ記入スヘシ

第七〇　戸口　明治何年十二月三十一日（進達期限四月三十日）何郡市役所

年報

市町村名	現在戸數	現住人口			本籍人口		
		男	女	計	男	女	計
合計							

●富山縣訓令甲第二十五號

郡市役所　町村役場

明治三十六年四月十日

富山縣統計報告ニ關スル規程左ノ通相定ム

但シ明治三十三年十二月本縣訓令甲第百五號富山縣統計報告規程ハ之ヲ廢止ス

富山縣統計報告ニ關スル規程

第一條　郡市長及町村長ハ此ノ規程ニ依リ諸般ノ統計事務ヲ處理スヘシ

但シ別段ノ規程アルモノハ此限ニアラス

第二條　統計ニ關スル報告ノ事項調査方法様式及報告期日等ハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第三條　郡市長及町村長ハ其ノ吏員中ニ就キ統計主任ヲ定メ其ノ官職氏名ヲ知事ニ報告スヘシ

但シ統計主任ノ異動アルトキ亦同シ

統計主任ハ事務ノ都合ニ依リ二名以上ヲ置クコトヲ得

第四條　統計材料ニ關スル書類ハ製表ノ年ヨリ一ケ年間ハ必ス之ヲ整理保存スヘシ

第五條　郡長ハ毎年一回以上町村ノ統計主任ヲ招集シテ統計諮問會ヲ開設シ其ノ狀況ヲ知事ニ報告スヘシ

但シ統計諮問會ヲ開設セントスルトキハ一週日前ニ其ノ旨ヲ當廳ニ報告スヘシ

第六條　郡長ハ統計事務ニ關シ郡統計主任ヲシテ毎年一回以上部内町村役場ヲ巡視セシメ其ノ實況ヲ知事ニ報告スヘシ

第七條　統計報告中其ノ指定期日内ニ報告ヲ爲シ能ハサルトキハ必ス其ノ事情ヲ具シ豫メ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

●富山縣訓令甲第二十六號

郡市役所　町村役場

明治三十六年四月十日

明治三十三年六月富山縣訓令甲第七十五號富山縣勸業統計様式中左ノ通改正ス

年報

四第一二　日本形難破船
四第一三　西洋形難破船
四第四〇　狩獵免許稅
四第五九　狩獵甲乙種免狀

以上廢止

一、四第四　織物、四第九　漁獲物、四第一〇　水產製造物、四第二三　工產物雜類表、四第二四　水產養殖、四第二六　森林伐採ノ一、四第二七　森林伐採ノ二、四第三二ノ一、全第三二ノ二　輸出入林產物、四第三三　石灰產額、四第四四　烟草、四第四八　煙草耕作ノ各表種別欄中價額ノ下單價ノ一欄ヲ加ヘ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、本表種別欄中ノ單價ハ數量ヲ以テ價額ヲ除シタルモノヲ云フ

一、四第三　會社表社債ノ欄中「總額、拂込濟額」ヲ「償還未濟額」ト改メ全表「最近損益金」及「最近利益配當割合」ノ二欄ヲ省ク備考ニ左ノ一項ヲ加フ

一、民法第三十五條ニ依リ營利ヲ目的トスル社團ニシテ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ法人タルモノモ調査スヘシ但シ商事會社ト一目判然タラシムル樣朱書スヘシ

一、四第四　織物表中機業戶數ヲ分テ獨立營業戶數、賃織戶數ノ二トナシ織工欄ノ次ニ補助織工ノ一欄ヲ加フ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、補助織工トハ經糸繰アソビ掛、延工、糊付工、糸返、管卷工等ノ機拵ヘニ屬スルモノヲ云フ

一、四第五　工場表中「職工」「徒弟」ノ區別ヲ廢シ「職工及徒弟」ト改メ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、本表ハ職工徒弟ヲ加算シ十人以上ノ工場ヲ調査スルモノトス

一、四第六　漁船ノ一及全第七漁船ノ二表中年內廢用欄ノ平均船齡ヲ省キ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、現在數ハ前年末現在數ニ年內ノ新造ヲ加ヘ年內廢用ヲ減シタルモノヲ云フ但シ賣買等アリタルモノハ其數ヲ備考ニ記入スヘシ

一、四第一六　種牡牛表ノ樣式ヲ左ノ通改正ス

四第一六　種牡牛馬　明治何年（報告期限六月十日）

種類	年齢（才）	尺寸（寸）	毛色（毛）	產地畜養地名	所有者住所氏名
牛					
馬					

一、四第一八　牛馬表ノ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、本表頭數欄ニハ前年末現在ニ年內出產ヲ加ヘ年內斃死ヲ減シタルモノヲ掲クルモノトス
但シ賣買等アリタル場合ハ其數ヲ備考ニ記入スヘシ

一、四第二三　工產物雜類表青銅器銅器ノ次ヘ建具、屏障類、木彫品、指物、農用利器、蒲莚、菅笠、漁網、足袋、刻煙草、素麪、セメント、煉瓦、組織物染、木綿織物染、絹糸染、綿糸染、ノ拾七欄ヲ追加ス

一、四第二六　森林伐採ノ一　仝第二七　森林伐採ノ二　仝第三一　林產物表ノ各備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

一、本表ハ山、原野ニ於ケル森、林ニ就テノミ調査スルモノトス

一、四第三〇　民有山林ノ二表樣式左ノ通改正ス

四第三〇　民有山林ノ二　明治何年（報告期限翌年二月十日）

郡市町村名	總反別	樹林地反別			無林地反別	不生產地反別
		闊葉樹林反別	針葉樹林反別	計		
	歩	歩	歩	歩	歩	歩

合計						

一、四第三二　輸出入林產物表ヲ「輸出入林產物ノ一」ト改メ薪材、木炭、竹ノ三欄ヲ削リ左ノ一表ヲ追加ス

四第三三　輸出入林產物ノ二　明治何年（報告期限翌年二月十日）

名稱	輸出			輸入		
	數量	價額	單價	數量	價額	單價
薪	棚	圓	圓	棚	圓	圓
木炭	メ	圓	圓	メ	圓	圓
竹	束	圓	圓	束	圓	圓
摘要						

一、一棚トハ長サ三尺ノモノヲ高サ六尺幅六尺ニ積立タルモノヲ云フ其層積ハ百〇八立方尺即チ九尺〆ヲ有スルモノナリ

一、一束トハ長サ三尺ノモノヲ長サ三尺ノ繩ヲ以テ結束シタルモノヲ云フ

一、本表ノ調査方ハ前表ノ備考ヲ準用ス

一、四第四一　縣外輸出入物品表中見立ヲ左ノ通リ改正シ合計ノ欄ヲ省ク

名稱	單位	輸出				輸入			
		數量	價額	單價	重ナル仕向先	數量	價額	單價	重ナル仕出先

一、四第四九　遠洋漁業表中「漁獵種類」トアルヲ「漁獵物名稱」ト改メ備考ニ左ノ一項ヲ追加ス
　一、遠洋漁業ニ依リ捕獲シタル物ノ價額ハ四第九漁獲物表ニ合算スヘカラス
一、四第五六　質屋ノ貸金表ニ左ノ備考ヲ加フ
　一、年末現在貸出金高ハ一年間ノ貸出金高ニ前年末貸出金高ヲ加算シ年內受戻金高及流金高ヲ減シタルモノヲ云フ但廢業等アル場合ハ廢業前年末貸出金高ヲ備考ニ記入スヘシ
一、四第六二　繭糸類及屑綿繭種表中屑絲及屑物トアルヲ屑糸ト改メ次ニ屑物ノ一欄ヲ加フ
一、四第六五表ノ次ヘ左ノ二表ヲ追加ス

四第六六　農家負擔及農産收入　明治何年度（報告期限六月十日）

郡市町村名	地目	收得物價額	地租	縣税市町村税其他負擔額	耕作費等	純益
	田	円	円	円	円	円
	畑					
計						

一、收得物ノ價額及耕作費ハ最近三ヶ年ノ平均額ヲ掲クヘシ
一、耕作費ハ勞銀、種子料、牛馬使用料、肥料、農具代及病虫害驅除費等ヲ掲クヘシ

四第六七　諸市場　明治何年十二月末日現在（報告期限二月十日）

郡市町村名	市場名稱	所在地	賣買品目	開市日
			古物兼何々	
			牛馬	
			生魚	
			青物	
			何々	

一、本表ハ會社表ニ記入セラレサル市場ノミヲ掲クルモノトス
一、市場名ノ欄ニハ場名ノナキモノト雖トモ其ノ賣買品目ニ依リ魚市場、青物市場、牛馬市場ト記入スヘシ

四第六八　水産業　明治何年十二月末日現在（報告期限翌年一月三十一日）

郡市町村名	漁業 主業 戸數	漁業 主業 人口 男	漁業 主業 人口 女	漁業 副業 戸數	漁業 副業 人口 男	漁業 副業 人口 女	製造 主業 戸數	製造 主業 人口 男	製造 主業 人口 女	製造 副業 戸數	製造 副業 人口 男	製造 副業 人口 女
郡												
市												

一主業ノ欄ニハ之ヲ生計ノ主トナセルモノヲ記シ副業ノ欄ニハ傍ラ之ヲ業トスルモノヲ記スヘシ
一人口ノ欄ニハ年齢十五歳以上ニシテ現ニ水産業ニ從事スルモノヲ記スヘシ

●富山縣訓令甲第三十五號

明治三十三年七月富山縣訓令甲第七十五號富山縣勸業統計樣式日報第一、第二ニ對スル災害狀況報告ニハ被害發生ノ月日、所在地、區域、面積、數量、損害見積價格等ヲ詳記スヘシ

明治三十六年五月二十二日

郡市　役所
町村　役場

●富山縣訓令甲第六十四號

明治三十一年十二月富山縣訓令第百六號甲號人口統計材料統計表取扱手續中左ノ通改正ス

明治三十六年九月十八日

郡市　役所
町村　役場

人口統計材料統計表樣式

第一號表並其ノ備考ヲ左ノ如ク改ム

（統計表ハ各通別紙ニ調製シ用紙ハ美濃判トス）

第一號　本籍人口族稱別　（毎五年調）

富山縣郡（市）町村名
明治　年十二月三十一日現在

族稱	戸主			家族			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
華族									
士族									
平民									
總計									

第一號表ハ毎五年十二月三十一日ヲ期トシ其ノ市町村內ニ本籍ヲ有スル者ノ同日ニ於ケル現在數ヲ翌年一月三十一日マテニ戸籍簿ニ記載セラレタル所ニ依リ調査記入スルモノトス

第二號表中並其ノ備考ヲ左ノ如ク改ム

表中生年各項ノ行間上部ヨリ合計ノ計ノ欄マテ貫通スル縱線ヲ諯ス

備考第二項ヲ削リ第三項ノ下ニ「但シ總計ノ行ニ於ケル有配偶者ノ男數ト女數トハ同數タルコト勿論其ノ合計ノ三欄ニ記入スル數ハ第一號表總計ノ行ノ合計ノ三欄ニ記スル數ト符合センコトヲ要ス」ヲ加フ

第三號表並其ノ備考ヲ左ノ如ク改ム

第三號　市町村出入人口及現住戸數　（毎五年調）

富山縣郡（市）町村名
明治　年十二月三十一日現在

出入別		種別	男	女	合計
他へ出	他市町村へ出寄留（本項ニハ次ノ四項ノ者ヲ除ク）				
	陸海軍在營艦ノ兵卒				
	囚人懲治人				
	在台灣				
	在外國				
	總計				
本市町村へ入寄留					

本市町村本籍人口			
出入差引本市町村ニ於ケル現住人口			
現住戸數			

第三號表出入別ハ毎五年十二月三十一日ニ於ケル本市町村ノ本籍人ノ内出寄留其ノ他ニテ本市町村外ニ在ル者ト本市町村内ニ本籍ヲ有セサル者ニシテ本市町村内ニ入寄留ノ者トノ數ニシテ翌年一月三十一日マテニ知ルコトヲ得タルモノヲ調査記入スルモノトス

他ヘ出ノ部他市町村ヘ出寄留ノ項ニハ其ノ市町村ニ本籍ヲ有シ本縣管轄ノ内外ヲ問ハス總テ他ノ市町村ニ居住セルモノノ數ヲ記入スルモノトス

本市町村本籍人口ハ第一號表ノ總計ノ行ニ記入スル合計ノ三欄卽チ男、女、計ノ各數ト同一ノモノナルニ依リ其ノ數ヲ本行各欄ニ記入スルモノトス

出入差引本市町村ニ於ケル現住人口ハ本市町村本籍人口ニ本市町村ヘ入寄留ノ數ヲ加ヘ他ヘ出トアル總計ノ行ノ數ヲ引去リテ得タル數ヲ記入スルモノトス

右出入別ハ寄留簿又ハ其ノ他各市役所町村役場ニ備フル精確ナル簿冊若ハ書類ニ依リ調査記入スヘシ其ノ寄留簿ニ依ラサルモノニハ各項ニ就キ何ノ簿冊又ハ書類ニ依レルカヲ必ス表末ニ附記スヘシ

現住戸數ハ毎五年十二月三十一日ヲ期トシ本籍人タルト非本籍人タルト又戸籍上戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハス總テ其ノ地ニ現住シテ一世帶ヲ爲ス竈數ヲ翌年一月三十一日マテニ知リ得タル所ニ依リ調査記入スルモノトス但シ官舍社寺學校病院製造所等ノ構内ニ住居スルモ別ニ一竈ヲナス者ハ又一戸トシテ之ヲ調査記入スルモノトス

右現住戸數ハ寄留簿租稅ニ關スル諸帳簿其ノ他精確ナル帳簿又ハ書類ニ依リ若ハ實地ニ就キ調査スヘシ但シ成ルヘク詳細ニ調査ノ方法ヲ表末ニ記入スヘシ

第四號表中種別各項ノ行間上部ヨリ合計ノ欄マテ貫通スル縱線ヲ畫ス

●富山縣訓令甲第七十三號

郡市役所　町村役場

明治三十六年十月十六日

富山縣勸業統計材料蒐集手續左ノ通定ム

富山縣勸業統計材料蒐集手續

第一條　勸業統計樣式ノ材料蒐集方法ヲ分チテ左ノ三種トス

一　簿冊調査　簿冊類ニ就キ調査ス

二　営業調査　各営業者ニ就キ調査ス

三　區域調査　一定ノ區域ニ就キ調査ス

第二條　簿冊調査ニ依ルヘキモノ、概目左ノ如シ

山林原野　民有山林ノ一　耕地作付不作付

第三條　営業調査ニ依ルヘキモノ、概目左ノ如シ

玄米平均相場	茶	會社
織物	工場	鹽
種牡牛	漆汁（漆樹ヲ除ク）	羊豚

綿絲紡績　陶磁器　水產養殖
輸出入林產物　石灰產額　石炭消費高
賣藥業　縣外輸出入物品　港灣及河岸場出入船舶
牛乳　春蠶　疊表莫蓙及莞莚
遠洋漁業　質屋ノ貸金　質屋ノ金利步合
夏秋蠶　蠶糸類及眞綿蠶種　畜產製造
獸皮及鳥獸毛　剝製半剝製鳥獸　諸市場

第四條　區域調査ニ依ルヘキモノヽ概目左ノ如シ
但シ區域ノ範圍ハ市町村ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

漁船　難破漁船　漁獲物
水產製造物　漆汁（漆樹ニ限ル）　牛馬
工產物雜類　森林植栽　森林伐採
民有山林ノ二　林產物　農家
農業者　自作地及小作地　開墾
麥　桑畑茶畑　米
食用及特用農產物　農家負擔及農產收入　水產業者

第五條　前三條ニ於テ定メタル各項目ノ材料蒐集方法ハ事情ニ依リ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第六條　當業調査ニ依ルヘキ項目ノ材料ハ其ノ全部若クハ幾部ヲ小票ニ依リテ蒐集スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニハ小票ノ配付並蒐集ハ當廳ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第七條　區域調査ニ依ルヘキ項目中米作調ハ左式ニ依ルヘシ

明治　年米作調

（何市町村）

區域別	上作田				中作田				下作田				收穫計	作付反別		
	稻ノ種類	一反歩收穫高	作付反別	總收穫高	稻ノ種類	一反歩收穫高	作付反別	總收穫高	稻ノ種類	一反歩收穫高	作付反別	總收穫高		有收穫	無收穫	合計
一（何々）																
二（何々）																
三（何々）																
總計																

備考　最下欄ノ作付反別中有收穫ノ欄ニハ上、中、下ノ作付反別ヲ合計シタル數ヲ揭クヘシ
稻ノ種類トハ粳米陸米ノ類ヲ云フ

●富山縣訓令甲第八十號

明治三十六年十一月十三日

郡市役所
町村役場

明治三十三年本縣訓令甲第七十五號勸業統計樣式中會社、工場及織物ノ各事項ハ來ル明治三十七年ニ於テハ本年本縣訓令甲第七十三號勸業統計材料蒐集手續第六條ニ基キ小票ヲ用ヰテ其ノ材料ヲ徴集ス

但シ小票取扱手續及小票並送致目錄ノ樣式ハ左ノ通トス

小票取扱手續

一　小票用紙ハ縣廳ニ於テ當要スヘキ枚數ヲ見積リ郡送致目錄用紙市町村送致目錄用紙ト共ニ徴集ノ二个月前迄ニ郡、市役所ヘ宛テ發送スルモノトス

二　各小票ノ提出期限ヲ左ノ通區別ス

イ　一月十日　當業者ヨリ市役所、町村役場ニ提出スヘキ期限

ロ　一月三十一日　市役所ヨリ縣廳ニ町村役場ヨリ郡役所ニ提出スヘキ期限

ハ　二月十五日　郡役所ヨリ縣廳ニ提出スヘキ期限

三　郡役所ハ縣廳ヨリ小票用紙ヲ受領シタルトキハ其ノ一部ヲ豫備ノ爲メ保存シ其ノ他ハ更ニ管內各町村役場ヘ配付スルモノトス

四　市役所ハ縣廳ヨリ町村役場ハ郡役所ヨリ小票ヲ受領シタルトキハ之ヲ當業者ニ配付シ記入ヲ爲サシメ徴集スルモノトス

五　記入ヲ了ハリタル小票ハ市長ハ縣廳ヘ町村長ハ郡役所ヘ市町村送致目錄ト共ニ遲滯ナク期限迄ニ送付スルモノトス

六　市町村長ハ記入ヲ了ハリタル小票ヲ發送スルニ先チ左ノ手續ヲ爲スモノトス

イ　小票記入ノ正否脫漏等ヲ檢閱スルコト

ロ　小票ハ全部整頓セルヤ否ヤヲ調査スルコト

ハ　小票ハ各種每ニ區別シ帶紙ヲ以テ一括トシ其ノ枚數ヲ市町村送致目錄ニ記入シ更ニ帶紙ヲ以テ之ヲ總括シ其ノ市町村一切ノ小票ヲ一括ト爲スモノトス

ニ　市町村送致目錄ハ其ノ役所又ハ役場名ノ下ニ主任者ヲシテ認印ヲ捺セシムルモノトス

七　郡役所ニ於テ町村長ヨリ記入シタル小票ノ送致ヲ受ケタルトキハ町村送致目錄ニ照シ枚數ヲ檢査シ符合セサルモノアルトキハ直ニ町村長ニ通知シテ再調セシムルモノトス

八　一町村ノ小票完備シタルトキハ郡役所ハ町村長ヨリ送付セルトキノ如ク帶紙ヲ以テ小票ノ各種ヲ各一括トシ更ニ之ヲ總括シテ町村括トシ其ノ完備ヲ證明スル爲メ町村送致目錄ノ郡名ノ下ニ主任者ヲシテ認印ヲ捺セシムルモノトス

九　郡役所ハ管內各町村ノ完備シタル小票ヲ取纏メ町村送致目錄ハ別ニ之ヲ取纏メ一括トシ郡送致目錄ニ指定ノ事項ヲ記入シ主任者ヲシテ認印ヲ捺セシメ之ヲ添ヘテ縣廳ヘ送付スルモノトス

十　市長又ハ町村長ハ小票ニ闕乏ヲ生スルト見込ムトキハ必要ノ枚數ヲ種類ヲ區別シ速ニ縣廳又ハ郡役所ニ請求シ縣廳又ハ郡役所ハ直ニ之ヲ補給スルモノトス

郡役所ノ豫備小票闕乏セル場合ニ於テハ郡役所ハ速ニ縣廳ヘ請求シ縣廳ハ直ニ之ヲ補給スルモノトス

小票樣式

（會社票樣式）　富山縣

（會社票樣式）

表面

富山縣　　　明治　　年十二月末日現在

會社票

會社種類	會社名稱	營業種別	所在地名	創業年月
			郡　町 市　村町	年　月

資本金			積立金	社債（償還未濟額）	支店數
總額	拂込	濟額			

裏面

一會社ハ本票ノ事項ヲ記入シ一月十日迄ニ市役所ヘ町村役場ヘ差引スヘシ
一會社ハ左ノ調査心得ヲ能ク了得シタル上ニ於テ最モ正確ナル事實ニ依リ愼重ニ記入スヘシ
一會社ハ本票ノ調査者ヲシテ明治　年十二月末日現在ノ下ニ認印ヲ捺セシムヘシ

調査心得

一會社種類ノ欄ニハ合名、合資、株式、株式合資ノ別ヲ記スヘシ
一營業種別ノ欄ニハ銀行、貯蓄、又ハ何賣買何製造ト記スヘシ
一創業年月ハ設立登記ノ年月ヲ記スヘク又登記法施行以前ニ係ルモノハ實際開業ノ年月ヲ記スヘシ
一社債トハ社債券ヲ發行シテ弘ク債權者ヲ募集シ以テ金員ヲ借入ルヽモノヲ云フ
一支店ニ於テハ金錢以外ノ各事項ヲ記入報告スヘシ
一會社ニシテ工場ヲ有スルモノハ別ニ工場票ニ記入スヘシ
一民法第三十五條ニ依リ營利ヲ目的トスル社團ニシテ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ法人タルモノモ調査報告スヘシ

富山縣

（工場票樣式）

表面

富山縣　　　明治　　年十二月末日現在

工場票

工場名稱	工場所在地名	持主名	創業年月	製造品種	一ケ年間執業日數	一日執業時間	原動力	
			年　月				機關數	公稱馬力

職工及徒弟人員						職工一人一日ノ賃錢		日傭勞働人夫	
	職工及徒弟								
	男	女	計			男	女	男	女
十四歲以上	人	人	人			錢			
十四歲未滿	人	人	人			錢			
計	人	人	人					人	人

（工場票樣式）

一、工場ハ本票ノ事項ヲ記入シ一月十日迄ニ市役所／町村役場ヘ差出スヘシ

一、工場ハ左ノ調査心得ヲ能ク了得シタル上ニ於テ最モ正確ナル事實ニ依リ愼重ニ記入スヘシ

一、工場ハ本票ノ調査者ヲシテ明治　　年十二月末日現在ノ下ニ認印ヲ捺セシムヘシ

調査心得

一、本票ハ職工徒弟ヲ合算シテ十人以上ヲ有スル工場ヲ調査スルモノトス

一、會社所有ノ工場ニテ會社ト工場ト所在地ヲ異ニスルモノハ工場所在地ヨリ報告スヘシ但シ分工場ハ本工場ト區別スル爲メ何々分工場ト記スヘシ

一、原動力欄ニハ蒸氣力、水力、電氣力、瓦斯力、風力等ト記スヘシ

一、職工及徒弟ハ平常使用スル一日ノ平均數ヲ掲クルモノトス

一、日傭勞働人夫ハ見逝シ一日ノ人數ヲ記スヘシ但シ杜氏ノ如キハ職工トシ水汲及米搗ノ如キハ日傭勞働人夫トス

一、職工ノ賃錢ハ概略平均一人一日ノ賃錢ヲ掲クルモノトス但シ高低ニ拘ハラス最モ多クノモノカ一日ニ受クル高ヲ記スルモノトス

一、執業日數ハ休業日ヲ除キタル一个年中ノ日數ヲ記シ一日執業時間ハ平均何時間若クハ夏ハ何時間冬ハ何時間ト記スヘシ

一、鑛山鑛物製錬所及釀造所等モ亦本票ニ記入スヘシ

一、日本形水車ハ機關數欄ニ日本形水車幾個ト記スヘシ

富山縣

裏面

（織物票樣式）

富山縣

明治　　年

織物票

營業者 住所	營業者 氏名	機臺 器械機	機臺 手織機	織工 男	織工 女	補助 男
郡　町村 市　町		臺	臺	人	人	人

織物ノ名稱							
數量							
價格	錢						
單價	錢						

表面

織工	女	人

（織物票樣式）

一織物製造業者ハ本票ノ事項ヲ記入シ一月十日迄ニ市役所町村役場ヘ差出スヘシ
一本票ノ記入方ハ左ノ調査心得ヲ能ク了得シタル上ニ於テ最モ正確ナル事實ニ依リ愼重ニ之ヲ爲スヘシ

裏

一本票ノ調査者ハ明治　年ノ下ニ認印ヲ捺スヘシ

調査心得

一營業者（織物製造者）竝機臺ハ十二月末日ノ現在織工及補助織工ハ平常使用スル一日ノ平均數ヲ記スルモノトス
一器械機トハ水力、瀛力、瓦斯力等ニ依リテ運轉スル器械織機ヲ云フ此ノ以外ハ總テ（ハタン機ノ如キモ）手織機ト心得ヘシ
一補助織工トハ綛子、アソビ掛、延工、糊付、糸返、管卷等ノ機拵ニ屬スルモノヲ云フ
一材料ヲ與ヘテ賃織ヲ爲サシムルモノハ機臺、織工、補助織工ヲ記スルニ及ハサルモノトス
一賃織ヲ業トスルモノハ織物ノ名稱、數量、價格及單價ハ之ヲ記スルニ及ハサルモノトス
一本票ニハ自家用織物ヲ合算スヘカラス
一織物ノ名稱ハ絹、木綿、麻等ノ區別ノ下ニ其織物ノ名稱ヲ記スヘシ例ヘハ絹織物（紋織類羽二重類）ト記スルカ如シ

一織物ノ數量、價格及單價ハ一个年中ニ織出シタルモノヲ調ヘ記スヘシ
一帶地三子供帶ハ男女共二本ヲ以テ一本ニ數ヘ女帶地半巾物及男物ハ二本ヲ以テ一本トス
一織物ノ中、四ヲ以テ數フルモノハ反ニ換算スヘシ
一織物ノ種類及其ノ種類ニ屬スル織物ノ名稱
絹織物（紋織類、縮緬類、羽二重類、斜子類、絲織類、紬太織類、平絹類、絽類、透綾類、海氣類、袴地類、男帶地類、女帶地類、其他
絹綿交織物（紋織類、縮緬類、二子其他糸入木綿、袴地類、男帶地類、女帶地類、其他
綿織物（白木綿、二子其他縞木綿、絣木綿、縮木綿、織色木綿類、綿フラ子ル、蚊帳地、袴地類、男帶地類、女帶地類、其他
麻織物（生麻布、上布類、蚊帳地、其他
毛織物（羅紗、毛布、フランネル、肩掛等
其他織物（前掲ノ部類ニ入ラサル織物

富山縣

送致目錄樣式

（市町村送地目錄樣式）

市町村送致目錄

票名	枚數
會社票	
工場票	

織物票

明治三十 年 月 日

郡市名

市役所町村役場名

（郡送致目錄樣式）

郡送致目錄

票名	枚數	括數	備考
會社			
織物			
工場			
合計			

所轄町村總數

町村括數

町村送致目錄枚數

明治三十 年 月 日

郡役所

報告

●富山縣訓令甲第八十二號

明治三十二年二月富山縣訓令第十六號富山縣報告例中左ノ通改正ス

明治三十六年十二月十一日

郡市役所

一 月報第二 水害表ハ明治三十七年分ヨリ年報トシ進達期限ヲ二月末日トス
尙該表備考末項ノ年季荒反別ノ事項ヲ削ル

一 年報第三 棄兒並養育費表ノ進達期日ヲ一月三十一日同第六二、溜池及水路表ノ進達期日ヲ四月三十日トシ同第四二、市町村基本財產表ノ「毎五年」報告ヲ毎年報告ニ改ム

一 年報第五九 著大橋梁全第六七、漁戶及漁人ヲ廢止ス

一 年報第六八 漁船種別調ノ調査時期ヲ「何年十二月末日」進達期日ヲ「二月二十日」トシ表中「漁浦」トアルヲ「濱浦湖川名」ニ改メ備考ヲ削除ス

一 年報第七〇 戶口表中「現在口數」トアルヲ「現住戶數」ニ改メ左ノ備考ヲ追加ス

一現住戶數ハ本籍人タルト非本籍人タルト又戶籍上戶主タルモノト戶主タラサルモノトヲ問ハス總テ其地ニ現住シテ一世帶ヲ爲ス竈數ニ依リ調査スルモノトス
但官舍、社寺、學校、病院、製造所等ノ構內ニ住居スルモ別ニ一竈ヲ爲ス者ハ又一戶トシテ調査スルモノトス

一現住人口ハ本籍人口ヲ本トシ之レニ本市町村ヘ入寄留ノモノヲ加ヘ（囚人懲治人、陸海軍在營艦兵卒ヲ除ク）而シテ本籍地ヨリ他市町村ヘ出住スルモノ卽チ出寄留者、陸海軍在營艦兵

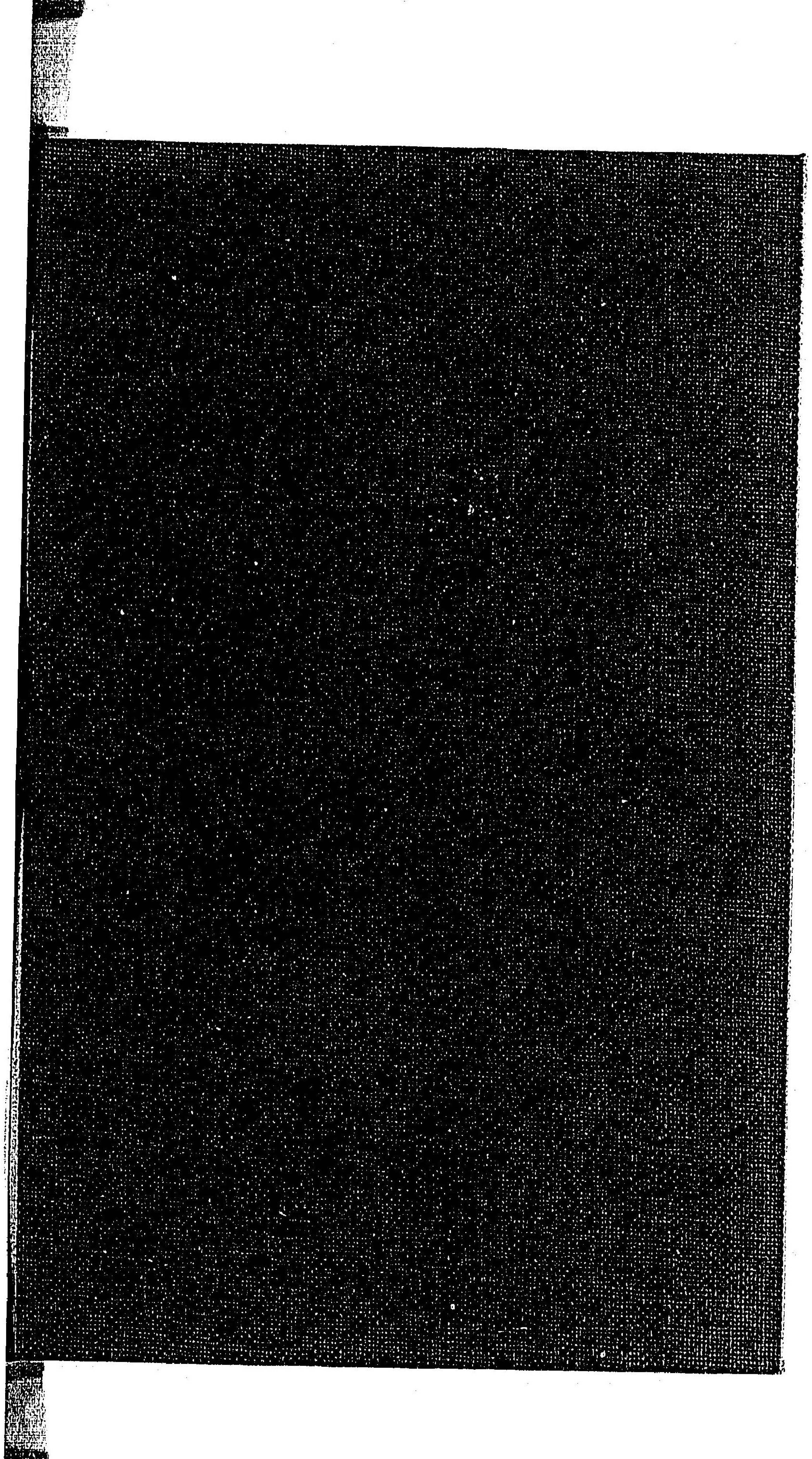
卒、囚人懲治人、在台灣、在外國ノモノヲ除キ調査スルモノトス

明治三十七年八月　日印刷
明治三十七年九月　日發行

富山縣知事官房

印刷者　富山市西四十物町三十七番地　中村銀次郎

印刷所　富山市總曲輪二百五十五番地　株式會社富山日報社



禁電子式複写

031344-010-9

CZ-1113-46-01

富山県法規類聚

富山県

M22-39

BBD-0551